

令和7年度 医療的ケアを必要とする方と  
そのご家族の暮らしに関する調査集計及び分析

調査報告書

磐田市

令和8年1月



## 目次

1	調査概要	1
1	1 調査の目的	1
2	2 調査の方法	1
3	3 回収結果	1
4	4 報告書内のデータ記述について	1
5	5 アンケート結果から見た傾向	2
2	アンケート結果分析	4
1	1 医療的ケアを受けられている方について	4
2	2 介助者について	20
3	3 日中の居場所について	41
4	4 災害時への対策について	42
5	5 支援について	48

付録 調査票



# 1 調査概要

## 1 調査の目的

磐田市内在住の医療的ケアを必要とする子どもや成人、またそのご家族の現状や課題を把握し、適切な支援につなげる。

## 2 調査の方法

- 1) 調査地域 磐田市全域
- 2) 調査対象 磐田市内在住で医療的ケア一覧（※）の医療的ケアを受けている方  
令和7年5月1日現在の年齢が64歳未満の方
- 3) 調査方法 該当者に対して案内用紙を関係機関（学校・医療機関等）から配布、市から郵送、および「広報いわた7月号」に掲載のうえ、専用フォームからインターネット回答
- 4) 調査期間 2025（令和7）年5月1日～8月31日

## 3 回収結果

回答者数 178人

## 4 報告書内のデータ記述について

- 1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出を行う。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。
- 2) 基数とすべき実数は、集計表の回答者数として表記され、図表中に「n」として記載した。比率はこれを100%として算出している。
- 3) 設問の選択肢が複数回答の場合は、比率の合計は通常100%を超える。
- 4) クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全件の件数には含めているので、各分析項目の件数が、全体の件数と一致しないことがある。
- 5) 設問の選択肢は、出力や分析の都合上、適宜省略を行う。

### ※医療的ケア一覧

No.	内容	No.	内容
1	人工呼吸器の管理	8	中心静脈カテーテルの管理（中心静脈栄養等）
2	気管切開の管理	9	皮下注射（インスリン等）
3	鼻咽頭エアウェイの管理	10	血糖管理（定時血糖測定、持続血糖測定、埋込式血糖測定）
4	酸素療法	11	継続的な透析（血液透析、腹膜透析）
5	吸引（口鼻腔・気管内吸引）	12	導尿（間欠的導尿、持続的導尿（尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう、尿路ストーマ））
6	ネブライザーの管理	13	排便管理（消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸）
7	経管栄養（胃ろう・腸ろう等）	14	痙攣時の対応（座薬挿入、吸引、酸素投与等）

## 5 アンケート結果から見た傾向

### 1) 医療的ケアを必要とする方について

- ・医療的ケアの内容によって、年齢層に明確な二極化の傾向がみられる。人工呼吸器管理や気管切開の管理など、重度の障害に関連するケアは20歳代以下の若年層が半数以上を占める。一方、血糖管理や継続的な透析など、生活習慣病や慢性疾患に関連するケアは40歳代以上の中老年層が半数以上を占める。
- ・年齢層の傾向と相関し、日常的な医療的ケアの方法も「全介助」か「自立」かに大きく分かれる。生命維持に直結するケアや身体的な管理が必要なものは「全介助」が多数を占め、サービスの利用状況を見ると「訪問看護」や「短期入所」、10歳代以下では「放課後等デイサービス」の利用割合が高い。
- ・一方、40歳代以上で多くみられる自分で管理可能なケア（血糖管理や継続的な透析）については「自立」および本人の就業率が高い傾向にある。それに伴い、福祉サービスの利用状況は「利用なし」が多数を占める。

### 2) 介助者について

- ・医療的ケアを受ける本人の年齢層により、主な介助者に違いがみられる。重度の障害に関するケアが多い20歳代未満の若年層では、介助の多くを「父母」が担っている。一方、本人の就業率や自立度が高い40歳代以上の中老年層では、介助者は「なし」または「配偶者」とする回答が中心となった。
- ・介助者の健康状態は、ケアの内容によって差異がみられる。「人工呼吸器管理」「酸素療法」「排便管理」など、身体的負担が大きいケア内容は、介助者の健康状態を「不良（通院中、通院希望などを含む）」とする回答が半数を超えた。精神面でも同様に、負担の大きいケアを担う介助者ほど、日常的に気分の落ち込みを感じている割合が高い傾向にある。
- ・医療的ケアの内容によって、介助者の就労状況は明確に分かれる。本人が自己管理可能なケアの場合、介助者の就労率は高い。一方、人工呼吸器管理や気管切開の管理など、常時のケアや見守りを要する場合は、「就労できない（未就労、希望はあるが困難）」とする回答割合が高い。
- ・医療的ケアを代わりに頼みたい場面としては、全てのケアの内容において「介助者自身の体調が悪いとき」が最も多く、特に重度の障害に関するケアを行う介助者ほど回答割合が高い。また、重度ケアの介助者においては、「冠婚葬祭」「同居家族の疾病」「自身の用事」といった場面での支援ニーズも高い傾向にある。
- ・重度の障害に関するケア内容を必要とする層は、「訪問看護」や「短期入所」の利用割合が高いものの、同時に「短期入所」「生活介護」「施設入所支援」などのサービスについて「不足している」と感じる割合も高い。重度ケアを担う介助者において、自身の健康や休息（レスパイト）の確保につながるサービスへの要望が切実であることが推察される。

### 3) 災害時の備えについて

- ・「食料品・飲料水の備蓄」は約7割が「備えている」と回答し、対策が進んでいる。一方、「医療用具・衛生材料の備蓄」「停電時の電源確保」「停電時の医療機器への対応」については約2割が「今後備えたい」と回答しており、生命維持に直結する備えへの懸念や危機感がうかがえる。
- ・災害時の避難行動要支援者名簿への登録は「有」が約2割にとどまる一方、「不明」が約3割にのぼった。また、災害時の備えについても、「家族以外で支援を依頼できる人との情報共有」や「隣人・自治会での情報共有」を「今後備えたい」とする回答が1割以上みられる。現状では名簿登録や地域連携が十分に進んでいない状況にあり、当事者のみならず、広く市民に向けて制度そのものの周知啓発が必要と考える。

### 4) 今後求められる支援について

- ・行政に対しては、医療的ケアに対応した入所施設や短期入所などの不足解消を求める意見が最も多かった。次いで、避難所の確保や電源・医療物資の備蓄といった「災害・緊急時対応の強化」、および医療費助成や各種手当増額など「経済的支援の拡充」を求める声が多い。その他、手続きの簡素化・オンライン化、移動手段の確保、家族支援など、多岐にわたる支援が求められている。
- ・地域に対しては、建物、交通機関、道路などの物理的なバリアフリー化を求める意見が多数を占めた。また、周囲の人々や社会全体に対し、障害への正しい理解や配慮（心のバリアフリー）を求める意見も多くみられた。
- ・医療機関や福祉事業所に対しては、利用時間の延長や緊急時の受け入れ、ショートステイの拡充など、在宅生活を支えるサービスの質・量的拡大を求める意見が多数となった。加えて、相談体制の充実やICTの活用、各施設における医療的ケア対応可能な専門スタッフの確保・育成を期待する声も多く寄せられた。

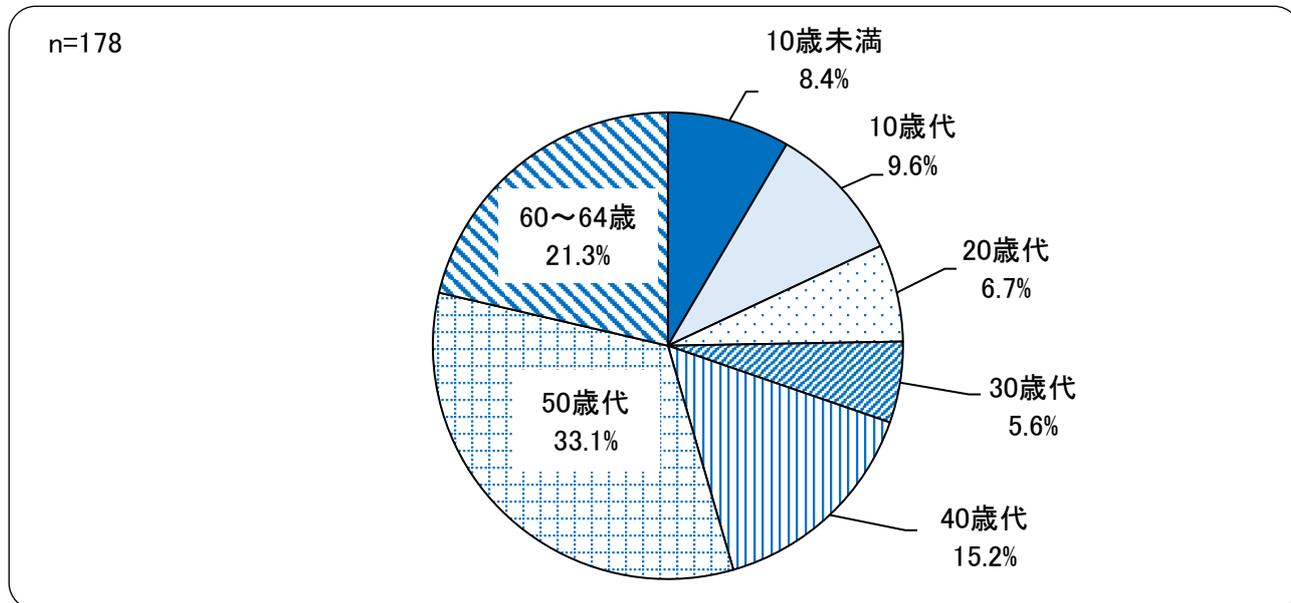
### 5) 今後の生活における心配事について

- ・最も深刻な懸念として挙げられたのは「親亡き後」の問題である。介助者の高齢化や健康問題によりケアが困難になった際、あるいは本人の自立度が低下した際の「生活の場」や「支援体制」に関する不安が多数を占めた。また、経済不安や受け入れ施設の不足、気軽に相談できる相手がないことなど、将来的な見通しが立たないことへの危機感や精神的な孤立感も課題として示されている。

## 2 アンケート結果分析

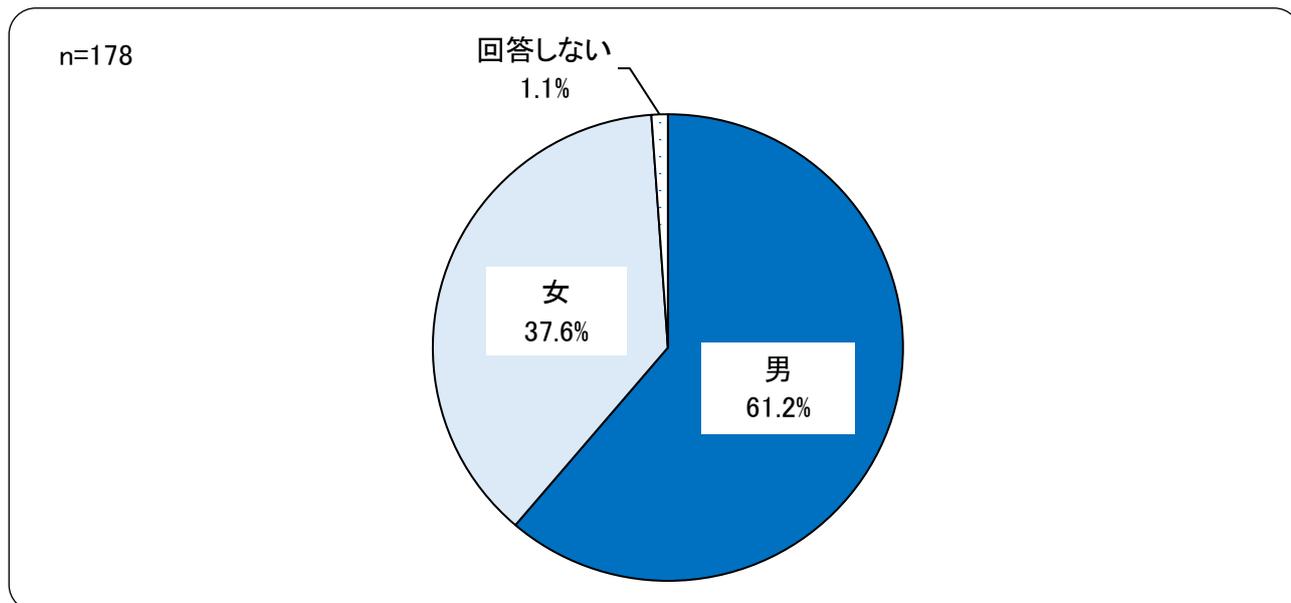
### 1 医療的ケアを受けている方について教えてください

#### 問1 年齢(令和7年5月1日時点)



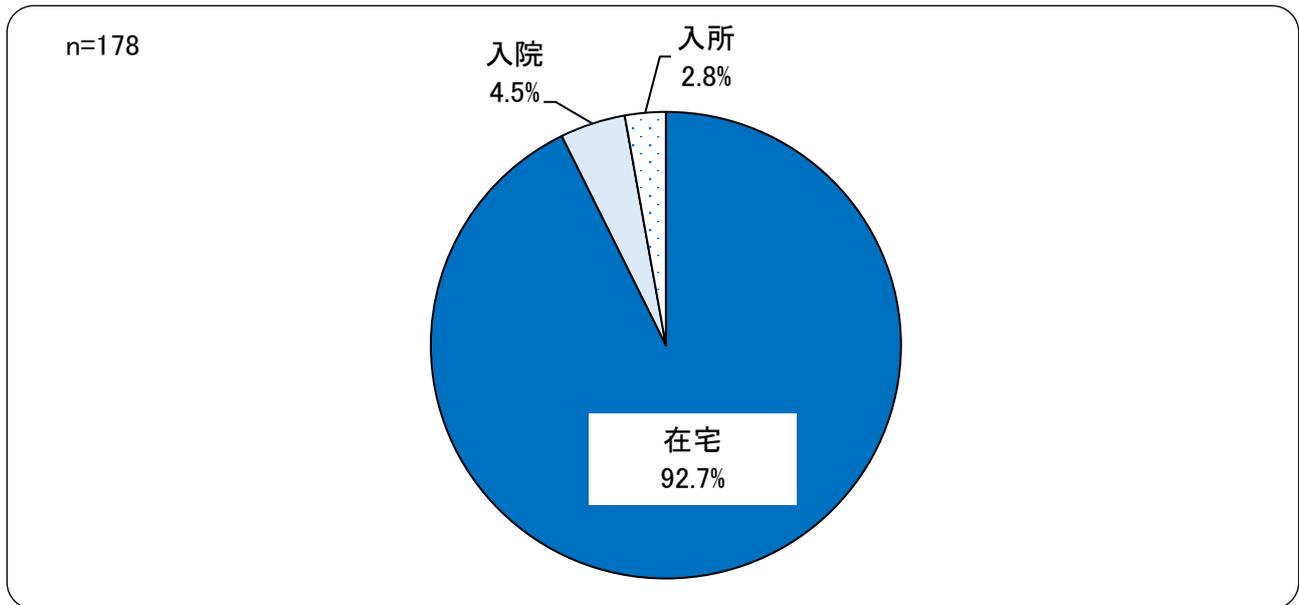
- 医療ケアを受けている本人の年齢については、「50歳代」が33.1%と最も多く、次いで「60~64歳」が21.3%、3番目は「40歳代」が15.2%となった。その他の年齢は10%未満となった。また、『20歳代以下(若年層)』の合計は24.7%となった。

#### 問2 性別



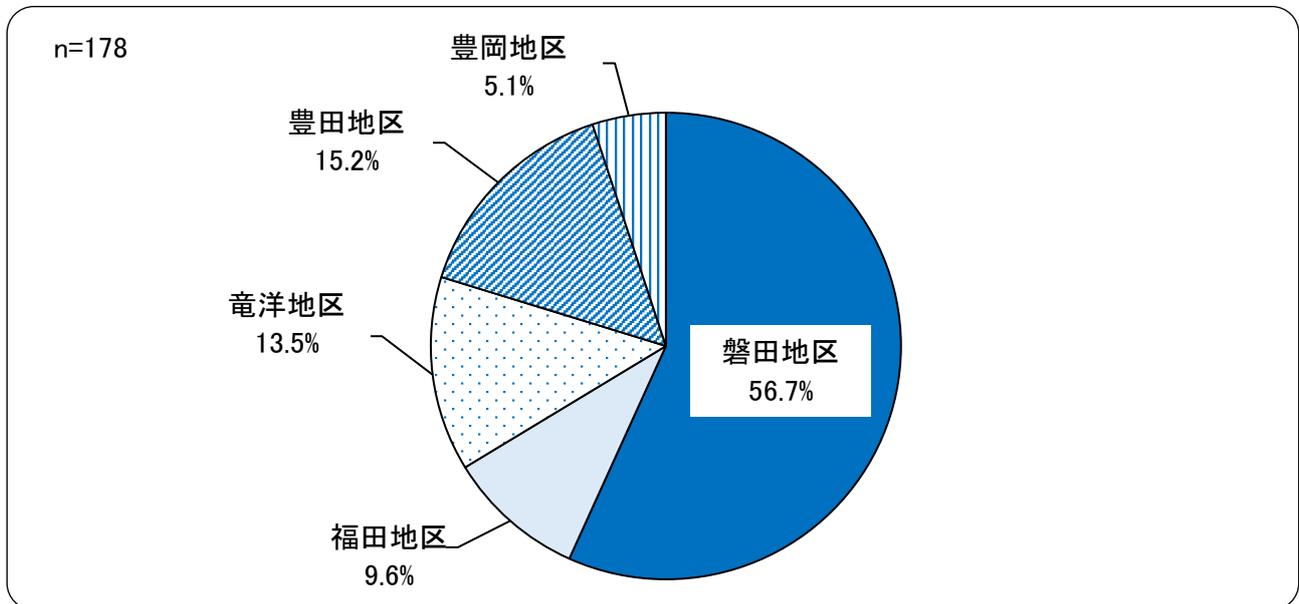
- 性別については、「男」が61.2%、「女」が37.6%、「回答しない」が1.1%となった。

### 問3 居住状況



➤ 居住状況については、「在宅」が 92.7%と最も多く、「入院」が 4.5%、「入所」が 2.8%となった。

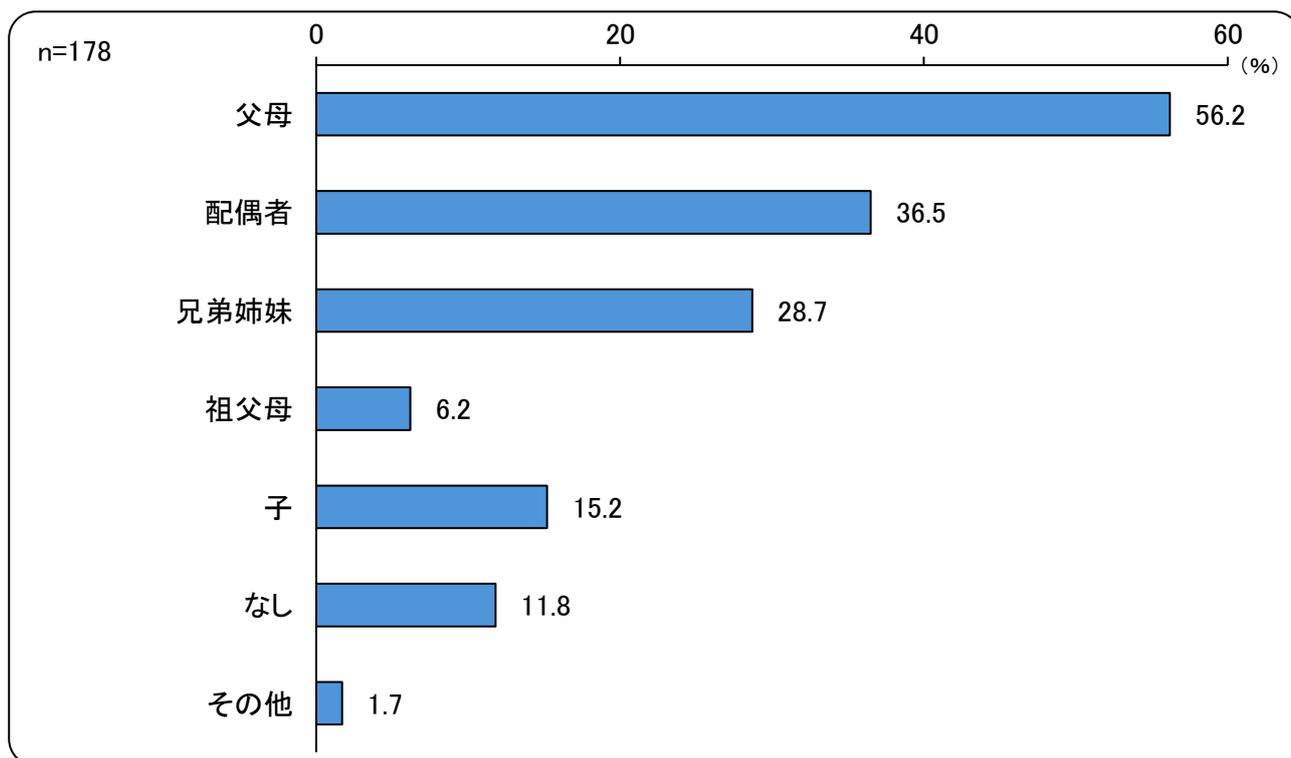
### 問4 お住まいの地域



➤ お住まいの地域については、「磐田地区」が 56.7%と半数以上を占めている。次いで「豊田地区」が 15.2%、3番目は「竜洋地区」が 13.5%となった。「福田地区」と「豊岡地区」は1割未満となった。

## 問5 家族構成

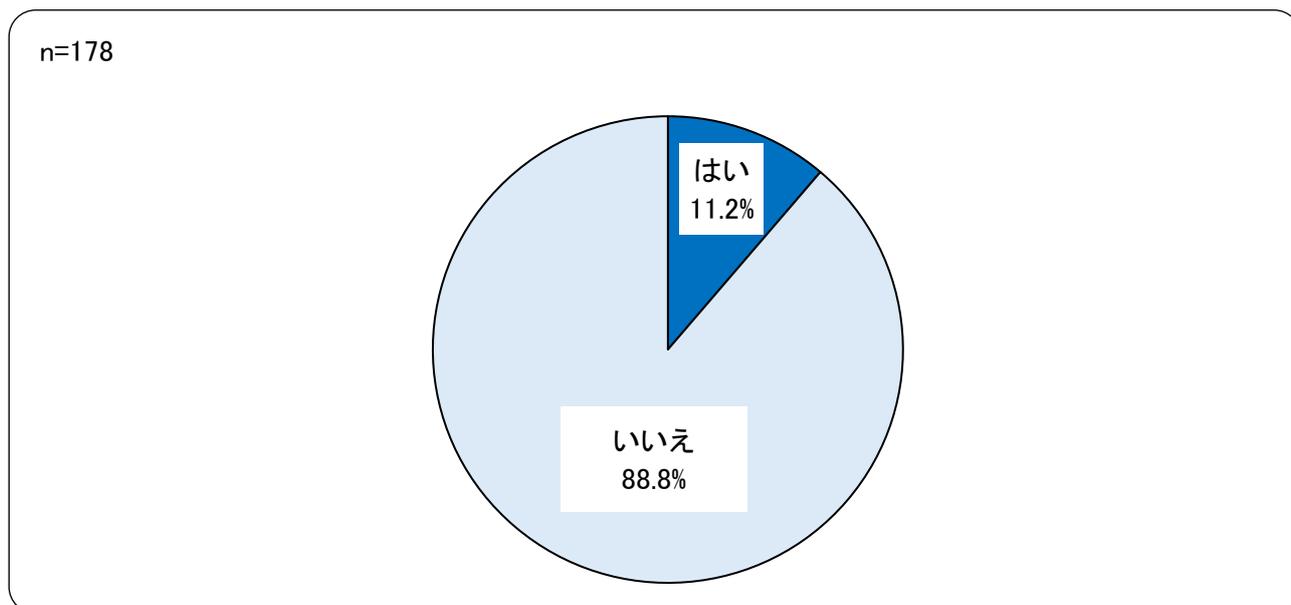
複数回答



- 家族構成については、「父母」が 56.2%と最も多い。次いで「配偶者」が 36.5%、3番目は「兄弟姉妹」が 28.7%となった。「なし」は 11.8%となり、単身者は1割以上となった。

## 問6 重症心身障害児(※)である

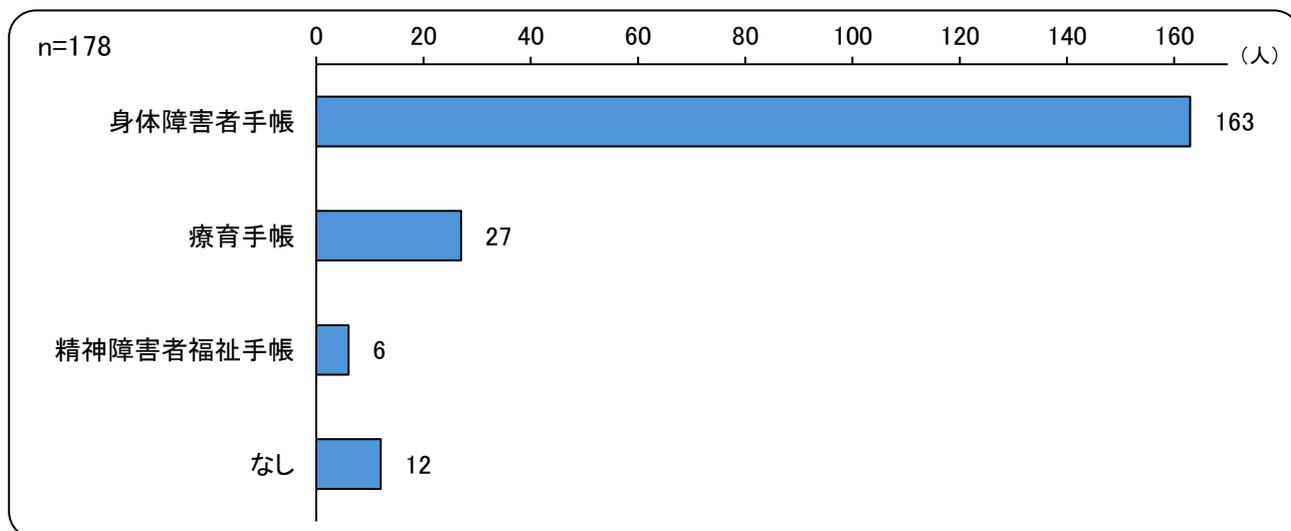
※重度の肢体不自由(身体障害者手帳 1、2 級程度)及び重度の知的障害(療育 A)を重複して有する方



- 重症心身障害児であるかどうかは、「はい」は 11.2%となった。

問7 障害者手帳の所持状況(複数選択可)  
所持している手帳すべてにチェックをしてください

複数回答



身体障害者手帳の等級	人数	(全体)%
1級	107	65.6
2級	18	11.0
3級	20	12.3
4級	17	10.4
5級	0	0.0
6級	1	0.6
合計	163	

療育手帳の障害程度	人数	(全体)%
A	22	81.5
B	5	18.5
合計	27	

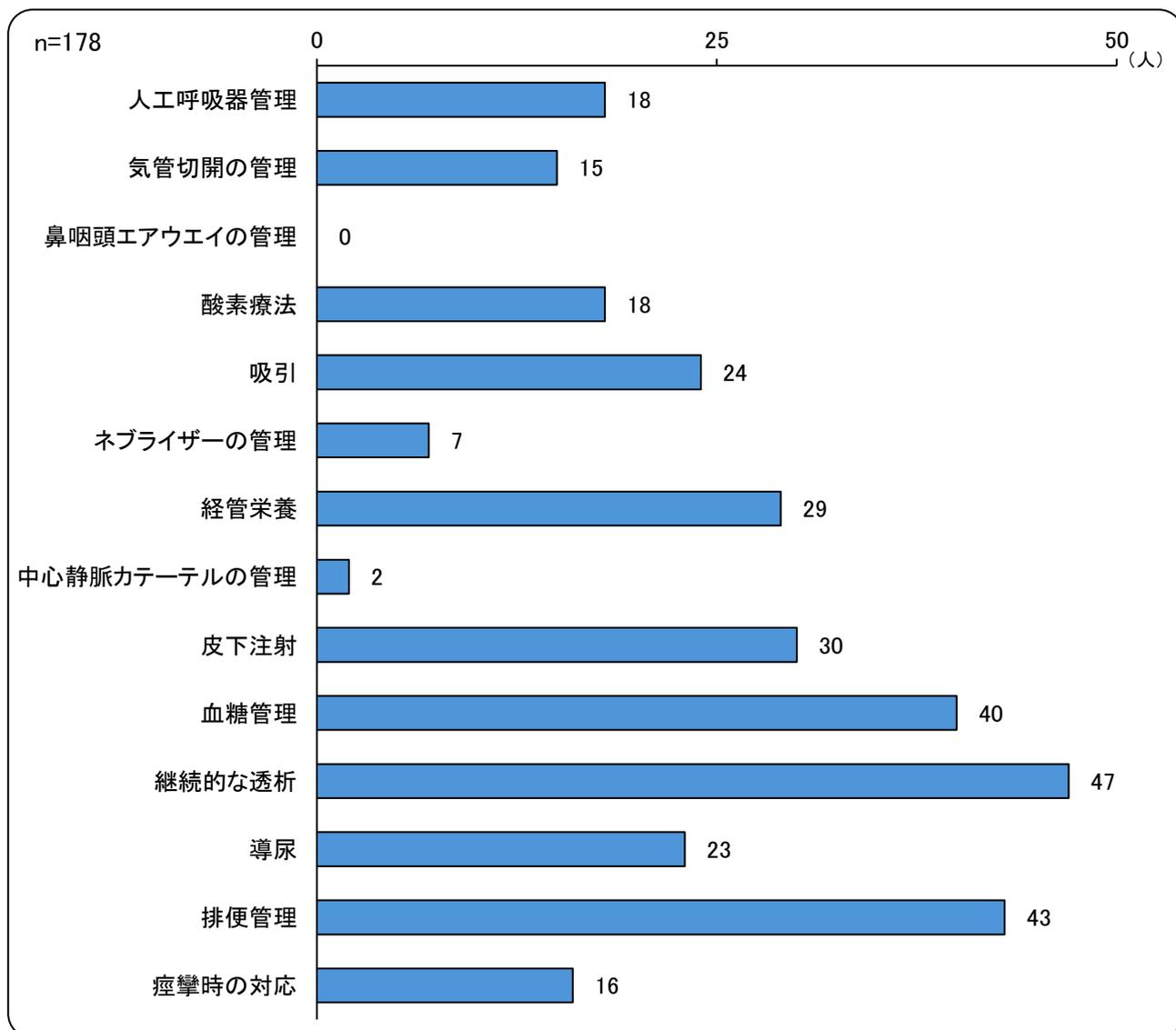
精神障害者福祉手帳	人数	(全体)%
1級	1	16.7
2級	2	33.3
3級	3	50.0
合計	6	

手帳なし・医療的ケア内容	人数	(全体)%
人工呼吸器管理	0	0.0
気管切開の管理	0	0.0
鼻咽喉頭エアウェイの管理	0	0.0
酸素療法	0	0.0
吸引	0	0.0
ネブライザーの管理	0	0.0
経管栄養	1	8.3
中心静脈カテーテルの管理	0	0.0
皮下注射	10	83.3
血糖管理	7	58.3
継続的な透析	0	0.0
導尿	0	0.0
排便管理	0	0.0
痙攣時の対応	0	0.0
合計	12	

- 障害者手帳の所持状況については、「身体障害者手帳」が163人、「療育手帳」が27人、「精神障害者福祉手帳」が6人となった。「なし」は12人となった。

問8 (日常的に行っている)医療的ケアの内容(複数選択可)

複数回答



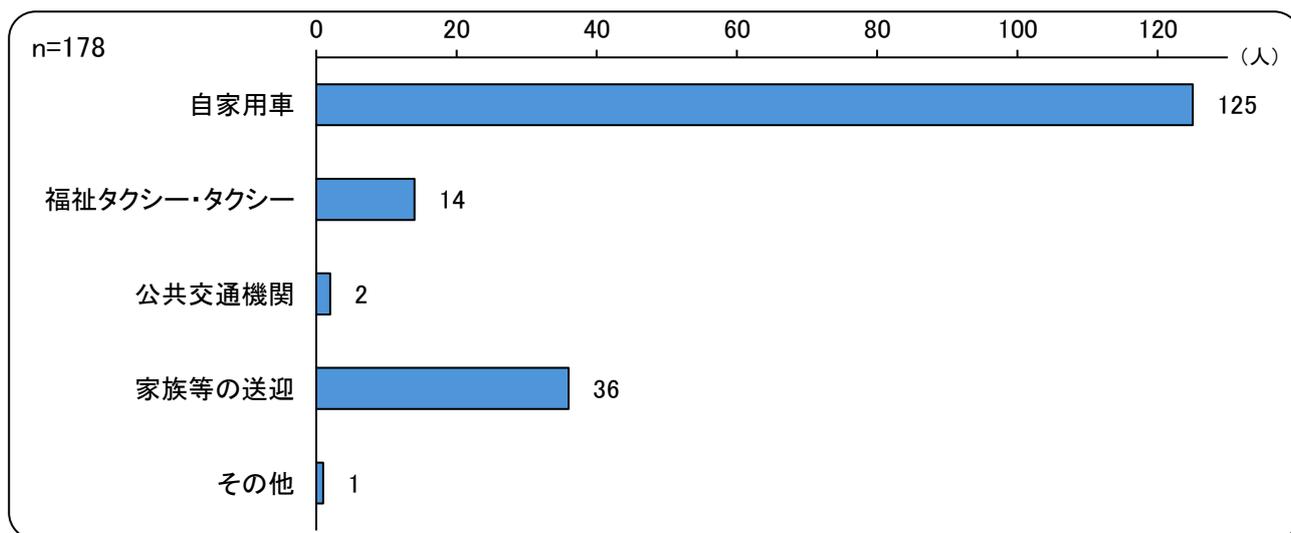
- (日常的に行っている)医療的ケアの内容については、「継続的な透析」が47人と最も多い。次いで「排便管理」が43人、3番目は「血糖管理」が40人となった。

【医療的ケアの内容別】

	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳～64歳
(%)							
全体 (n=178)	8.4	9.6	6.7	5.6	15.2	33.1	21.3
人工呼吸器管理 (n=18)	16.7	22.2	16.7	16.7	5.6	5.6	16.7
気管切開の管理 (n=15)	6.7	33.3	20.0	20.0	6.7	-	13.3
鼻咽頭エアウェイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=18)	5.6	22.2	22.2	16.7	16.7	-	16.7
吸引 (n=24)	16.7	25.0	25.0	12.5	8.3	4.2	8.3
ネブライザーの管理 (n=7)	-	42.9	28.6	14.3	-	-	14.3
経管栄養 (n=29)	20.7	24.1	24.1	13.8	3.4	3.4	10.3
中心静脈カテーテルの管理 (n=2)	50.0	-	-	-	-	50.0	-
皮下注射 (n=30)	13.3	10.0	6.7	3.3	16.7	40.0	10.0
血糖管理 (n=40)	5.0	12.5	5.0	2.5	7.5	42.5	25.0
継続的な透析 (n=47)	-	-	2.1	2.1	17.0	61.7	17.0
導尿 (n=23)	17.4	4.3	8.7	8.7	26.1	13.0	21.7
排便管理 (n=43)	14.0	18.6	14.0	9.3	11.6	7.0	25.6
痙攣時の対応 (n=16)	-	18.8	25.0	18.8	18.8	12.5	6.3

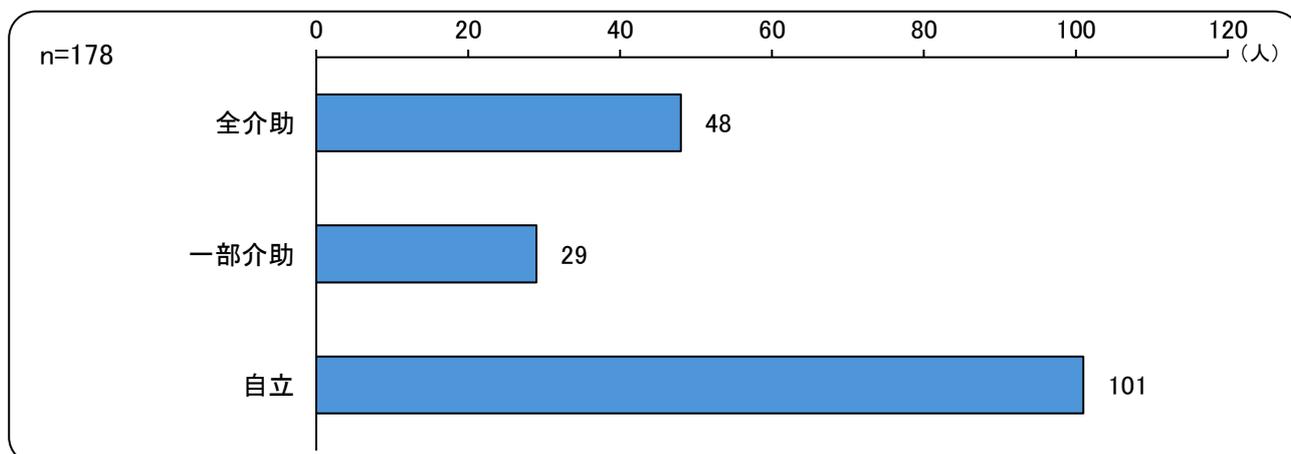
- 医療的ケアの内容別でみると、「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「酸素療法」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」は 20 歳代以下の若年層で半数以上を占める。一方、「皮下注射」「血糖管理」「継続的な透析」「導尿」は 40 歳代以上の年齢層で半数以上を占める。

### 問9 主な移動手段



- 主な移動手段については、「自家用車」が 125 人と最も多い。次いで「家族等の送迎」が 36 人となった。

### 問 10 (日常的に行っている)医療的ケアの方法



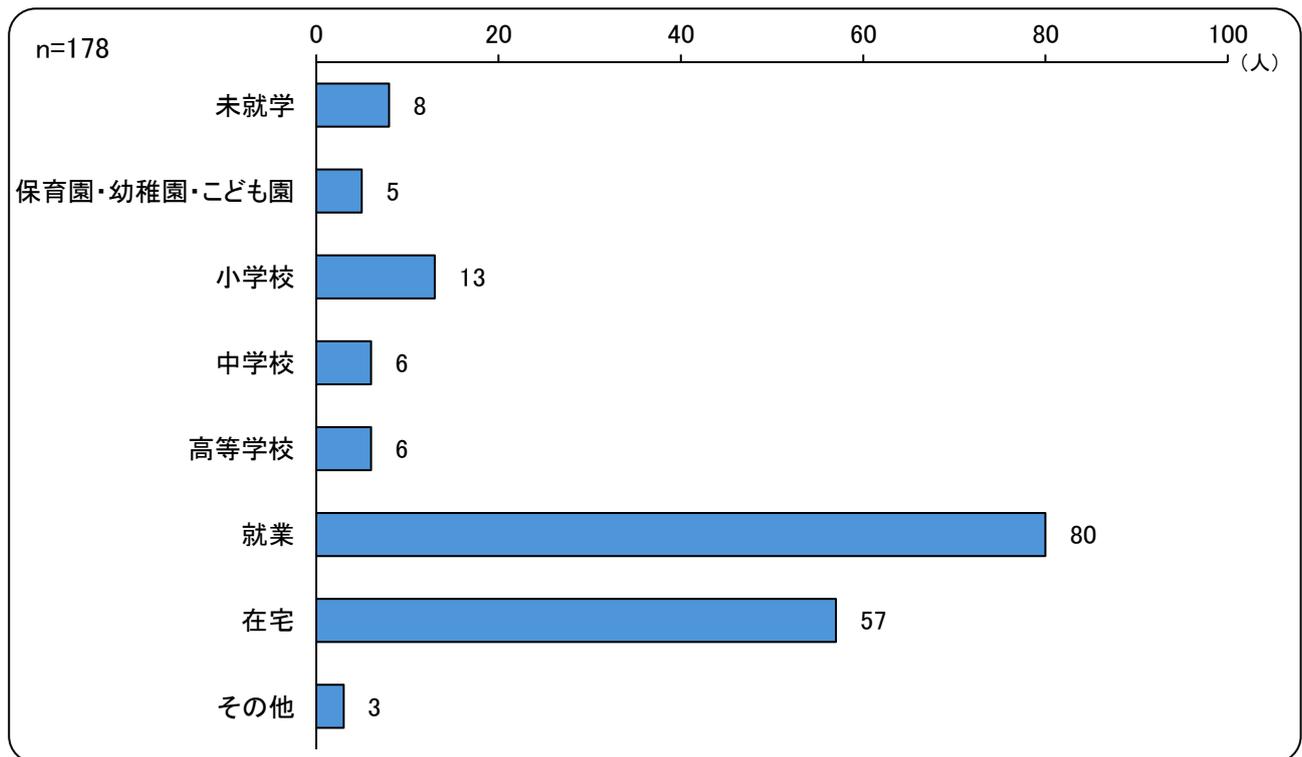
- (日常的に行っている)医療的ケアの方法については、「自立」が 101 人と最も多い。「全介助」は 48 人、「一部介助」は 29 人となった。

【医療的ケアの内容別】

(%)	全介助	一部介助	自立
全体 (n=178)	27.0	16.3	56.7
人工呼吸器管理 (n=18)	72.2	11.1	16.7
気管切開の管理 (n=15)	100.0	-	-
鼻咽頭エアウェイの管理 (n=0)	-	-	-
酸素療法 (n=18)	66.7	11.1	22.2
吸引 (n=24)	95.8	-	4.2
ネブライザーの管理 (n=7)	85.7	-	14.3
経管栄養 (n=29)	93.1	6.9	-
中心静脈カテーテルの管理 (n=2)	50.0	-	50.0
皮下注射 (n=30)	10.0	20.0	70.0
血糖管理 (n=40)	7.5	25.0	67.5
継続的な透析 (n=47)	2.1	4.3	93.6
導尿 (n=23)	47.8	21.7	30.4
排便管理 (n=43)	62.8	20.9	16.3
痙攣時の対応 (n=16)	68.8	12.5	18.8

- 医療的ケアの内容別でみると、「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「酸素療法」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」「排便管理」「痙攣時の対応」は「全介助」が半数以上を占める。一方、「皮下注射」「血糖管理」「継続的な透析」は「自立」が半数以上を占める。

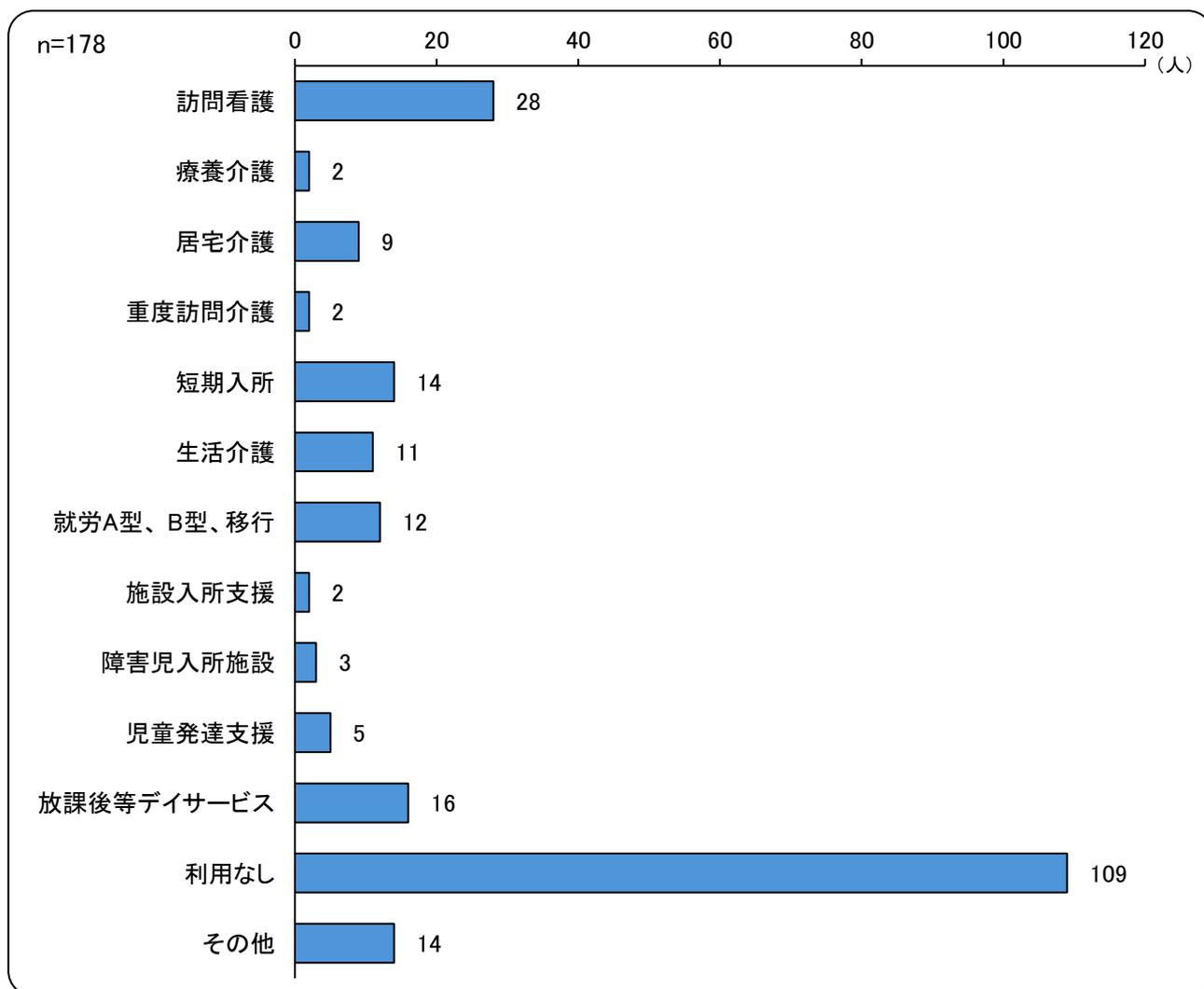
## 問 11 就学・就業の状況



- 就学・就業の状況については、「就業」が80人と最も多い。次いで「在宅」が57人となった。「小学校」「中学校」「高等学校」を合計した『就学』は25人となった。

## 問 12 サービスの利用状況(複数選択可)

複数回答



- サービスの利用状況については、「利用なし」が 109 人と最も多い(利用なしの内訳は次ページ参照)。
- 利用しているサービスで見ると、「訪問看護」が 28 人と最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が 16 人となった。

【医療的ケアの内容別】

	訪問看護	療養介護	居宅介護	重度訪問介護	短期入所	生活介護	就労A型、B型、移行	施設入所支援	障害児入所施設	児童発達支援	放課後等デイサービス	利用なし	その他
(%)													
全体(n=178)	15.7	1.1	5.1	1.1	7.9	6.2	6.7	1.1	1.7	2.8	9.0	61.2	7.9
人工呼吸器管理(n=18)	50.0	-	5.6	5.6	27.8	27.8	5.6	-	-	5.6	22.2	27.8	5.6
気管切開の管理(n=15)	73.3	6.7	20.0	6.7	46.7	26.7	-	6.7	6.7	6.7	33.3	-	13.3
鼻咽頭エアウェイの管理(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法(n=18)	44.4	5.6	11.1	5.6	22.2	27.8	5.6	5.6	5.6	-	16.7	27.8	11.1
吸引(n=24)	58.3	8.3	16.7	4.2	37.5	29.2	-	4.2	4.2	4.2	33.3	8.3	16.7
ネブライザーの管理(n=7)	71.4	-	14.3	-	42.9	14.3	-	14.3	14.3	-	42.9	14.3	14.3
経管栄養(n=29)	51.7	3.4	20.7	3.4	27.6	27.6	-	3.4	6.9	13.8	27.6	3.4	13.8
中心静脈カテーテルの管理(n=2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
皮下注射(n=30)	6.7	-	-	-	-	-	10.0	-	-	-	3.3	80.0	3.3
血糖管理(n=40)	15.0	-	2.5	-	5.0	-	17.5	-	-	-	10.0	62.5	5.0
継続的な透析(n=47)	2.1	-	-	-	-	2.1	2.1	-	-	-	-	95.7	-
導尿(n=23)	21.7	4.3	13.0	8.7	4.3	13.0	4.3	-	-	-	4.3	52.2	17.4
排便管理(n=43)	32.6	2.3	11.6	4.7	14.0	11.6	7.0	4.7	4.7	4.7	16.3	30.2	18.6
痙攣時の対応(n=16)	43.8	6.3	6.3	-	18.8	43.8	-	-	-	6.3	18.8	18.8	18.8

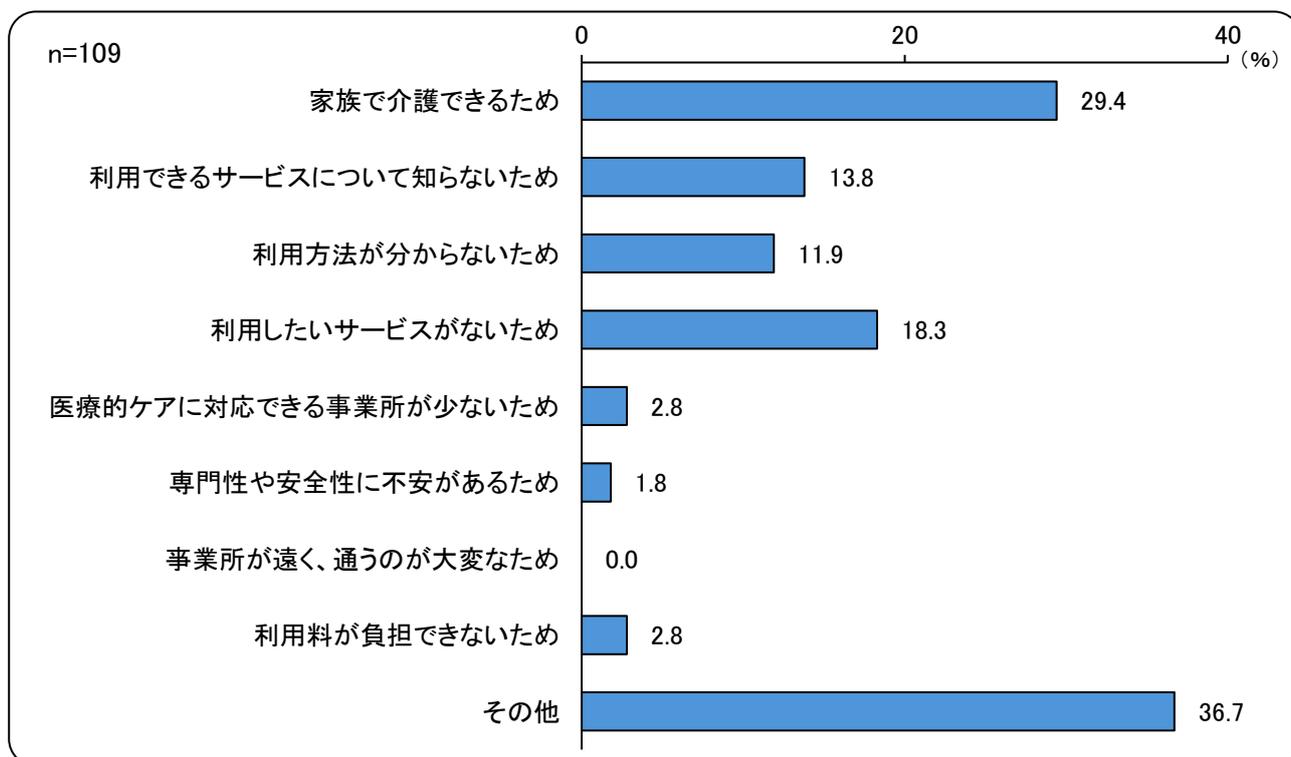
- 医療的ケアの内容別で見ると、「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」は「訪問看護」が50%以上となった。一方、「中心静脈カテーテルの管理」「皮下注射」「血糖管理」「継続的な透析」「導尿」は「利用なし」が50%以上となった。

【サービス利用なし・医療的ケアの方法】

医療的ケアの方法	人数	(全体)%
全介助	4	3.7
一部介助	14	12.8
自立	91	83.5
合計	109	

【サービスを利用しない理由】

複数回答



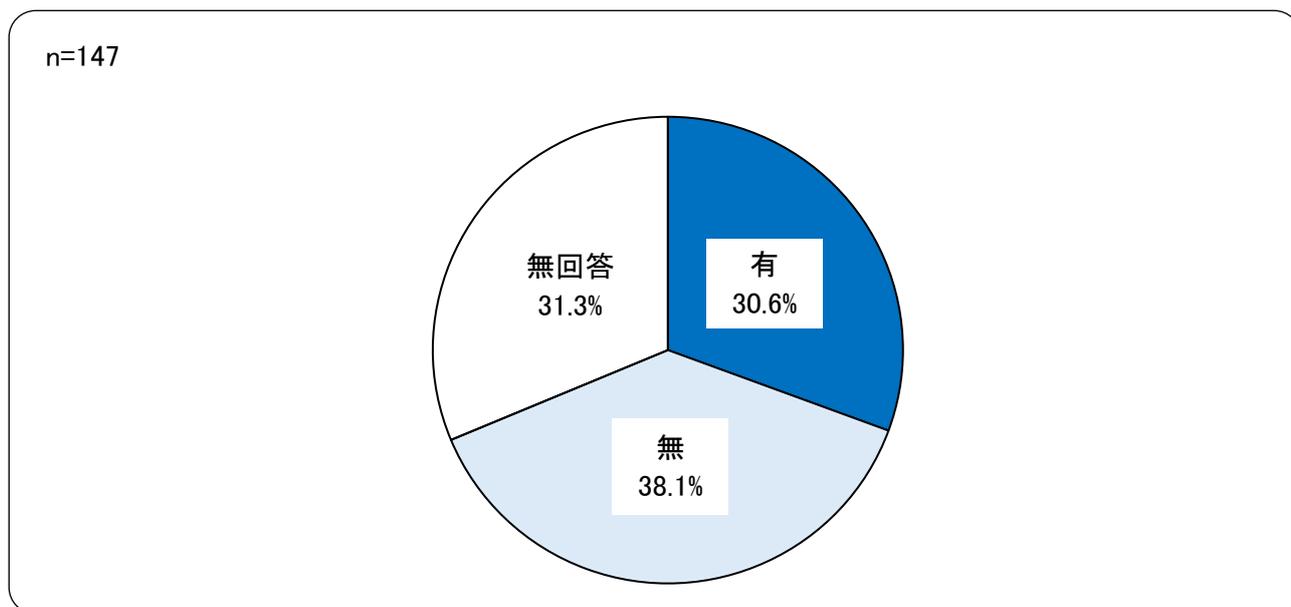
- サービスの利用がない方の医療的ケアの方法については、「全介助」が4人、「一部介助」が14人、「自立」が91人となった。
- サービスを利用しない理由については、「その他」が36.7%と最も多い。次いで「家族で介護できるため」が29.4%となった。3番目は「利用したいサービスがないため」が18.3%となった。

## 【サービスを利用しない理由・その他】

分類	件数	内容
現時点では必要性を感じない	19	医療的ケアはあるものの、サービスについては「必要ない」「今のところなし」とする意見。
自立している・自分で対応可能	18	「自立」「自分でできる」「一人で生活できる」など、状況によりサービスが不要であるとする意見。
検討中・方針未定	3	今後の利用を検討している、方向性が決まっていない、またはいずれ施設入所を考えているという意見。
入院中	1	入院中。

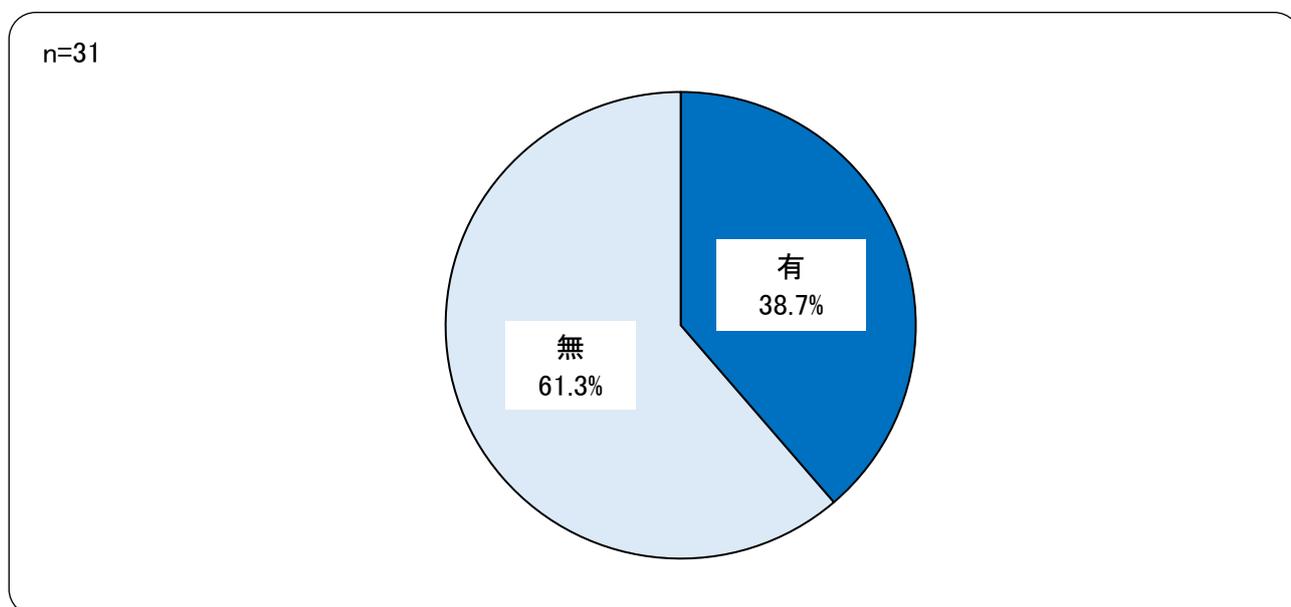
- サービスを利用しない「その他」の理由として最も多いのは、「必要ない」や「今のところなし」の回答であった。「透析をしているがサービスは必要なし」や「ストーマ管理のみ」など、医療的ケアのみが必要であり、現時点でのサービスは必要としていないとの内容であった。
- 次いで多いのは、「自分でできる」や「自立している」の回答であった。現在の医療的ケアの方法（自立）によりサービスが不要であることや、自分でできることを理由としている。
- 「必要性を感じない」や「自立している」の分類での回答は、40歳以上の年齢で多くみられた。

問 13 障害支援区分の認定状況(18歳以上の方のみ)



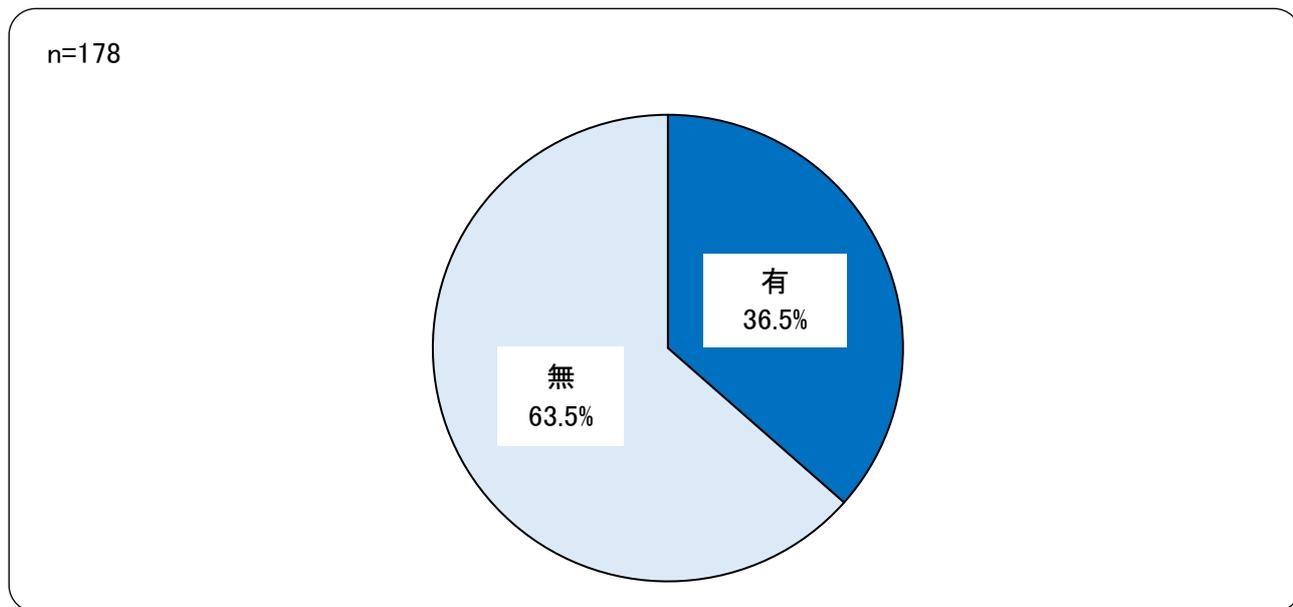
➤ 障害支援区分の認定状況については、「有」が30.6%、「無」が38.1%となった。

問 14 小児慢性特定疾病医療受給者証の有無(18歳未満の方のみ)



➤ 小児慢性特定疾病医療受給者証の有無については、「有」が38.7%、「無」が61.3%となった。

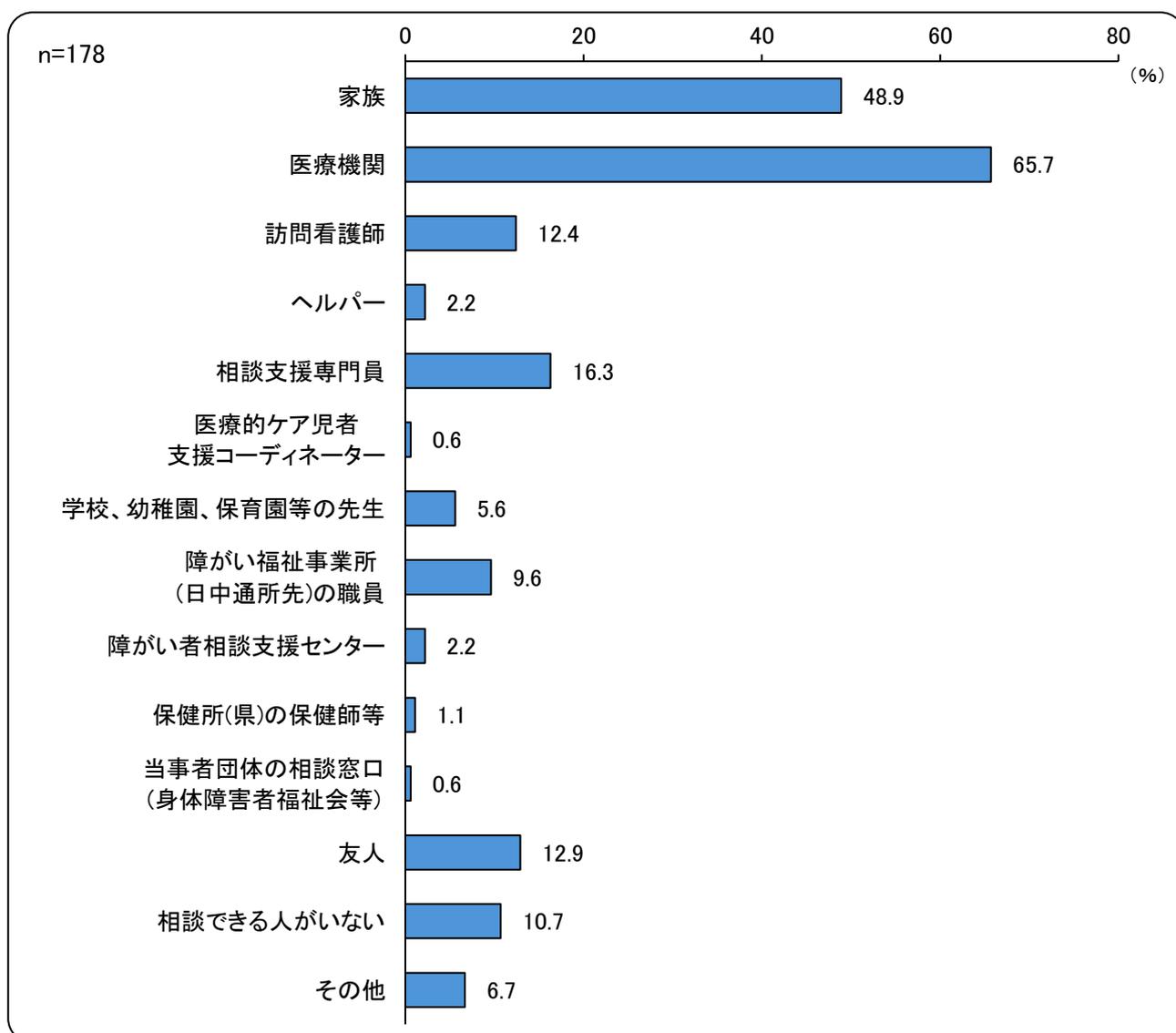
問 15 特定医療費(指定難病)医療費受給者証の有無



- 特定医療費(指定難病)医療費受給者証の有無については、「有」が36.5%、「無」が63.5%となった。

問 16 医療的ケアや介護に係る困りごとの相談先(複数選択可)

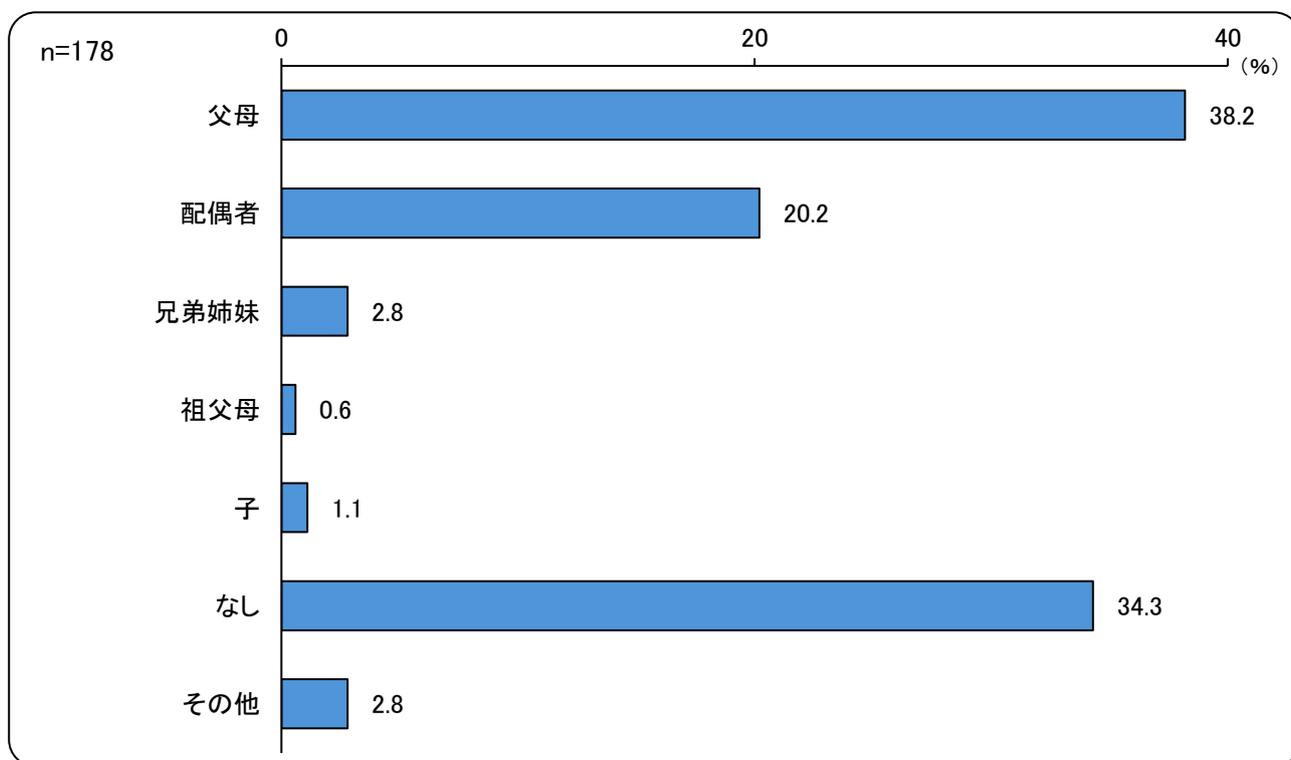
複数回答



- 医療的ケアや介護に係る困りごとの相談先については、「医療機関」が 65.7%と最も多い。次いで「家族」が 48.9%となった。また、1割を超える相談先は「訪問看護師」「相談支援専門員」「友人」となった。一方、「相談できる人がいない」も1割を超える。

## 2 介助者について教えてください

### 問1 主な介助者



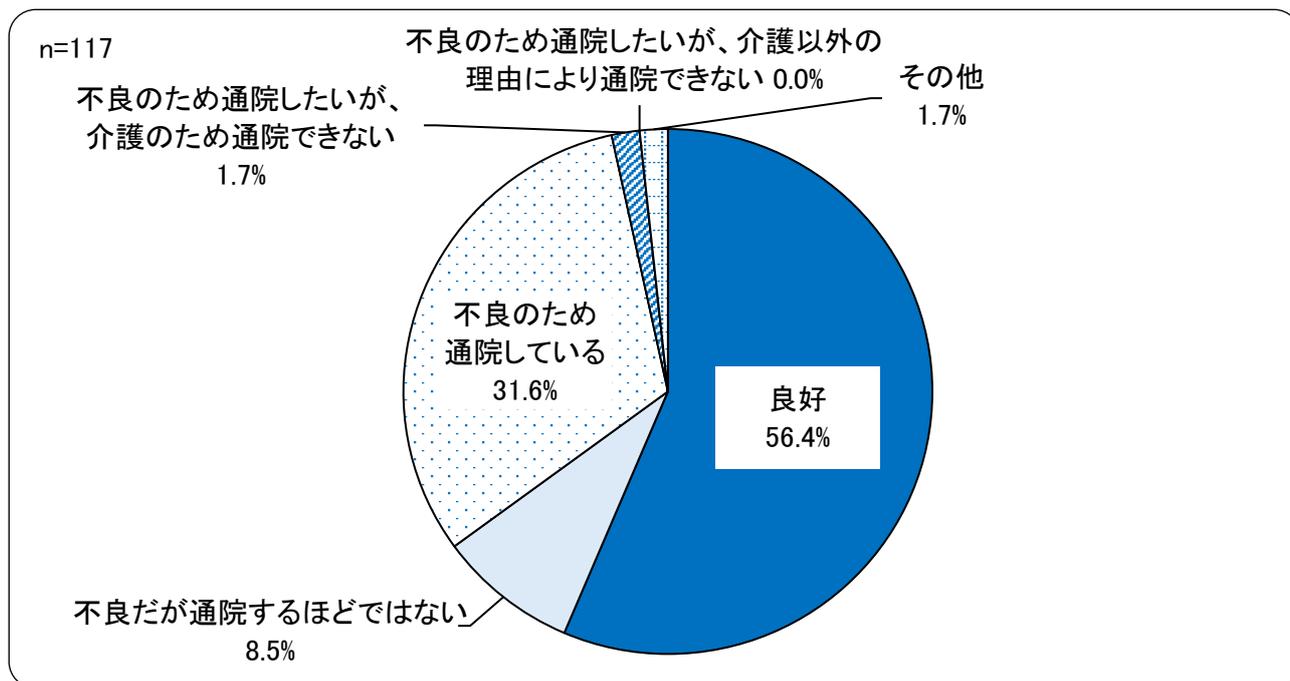
- 主な介助者については、「父母」が38.2%と最も多い。次いで「なし」が34.3%、3番目は「配偶者」が20.2%となった。

【医療的ケアの内容別】

	父 母	配 偶 者	兄 弟 姉 妹	祖 父 母	子	な し	そ の 他
(%)							
全体 (n=178)	38.2	20.2	2.8	0.6	1.1	34.3	2.8
人工呼吸器管理 (n=18)	77.8	16.7	-	-	-	5.6	-
気管切開の管理 (n=15)	86.7	6.7	-	-	-	-	6.7
鼻咽頭エアウエイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=18)	66.7	11.1	5.6	-	-	16.7	-
吸引 (n=24)	87.5	4.2	-	-	-	4.2	4.2
ネブライザーの管理 (n=7)	85.7	-	-	-	-	14.3	-
経管栄養 (n=29)	82.8	6.9	-	-	3.4	-	6.9
中心静脈カテーテルの管理 (n=2)	50.0	50.0	-	-	-	-	-
皮下注射 (n=30)	36.7	20.0	-	-	-	40.0	3.3
血糖管理 (n=40)	32.5	27.5	-	-	-	37.5	2.5
継続的な透析 (n=47)	10.6	19.1	2.1	-	2.1	66.0	-
導尿 (n=23)	65.2	17.4	-	-	-	13.0	4.3
排便管理 (n=43)	62.8	18.6	4.7	2.3	-	4.7	7.0
痙攣時の対応 (n=16)	75.0	12.5	6.3	-	-	6.3	-

- 医療的ケアの内容別でみると、「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「酸素療法」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」「導尿」「排便管理」「痙攣時の対応」は「父母」が最も多い。一方、「皮下注射」「血糖管理」「継続的な透析」は「なし」が最も多い（「中心静脈カテーテルの管理」は「父母」と「配偶者」が同率）。

## 問2 身体 の健康状況



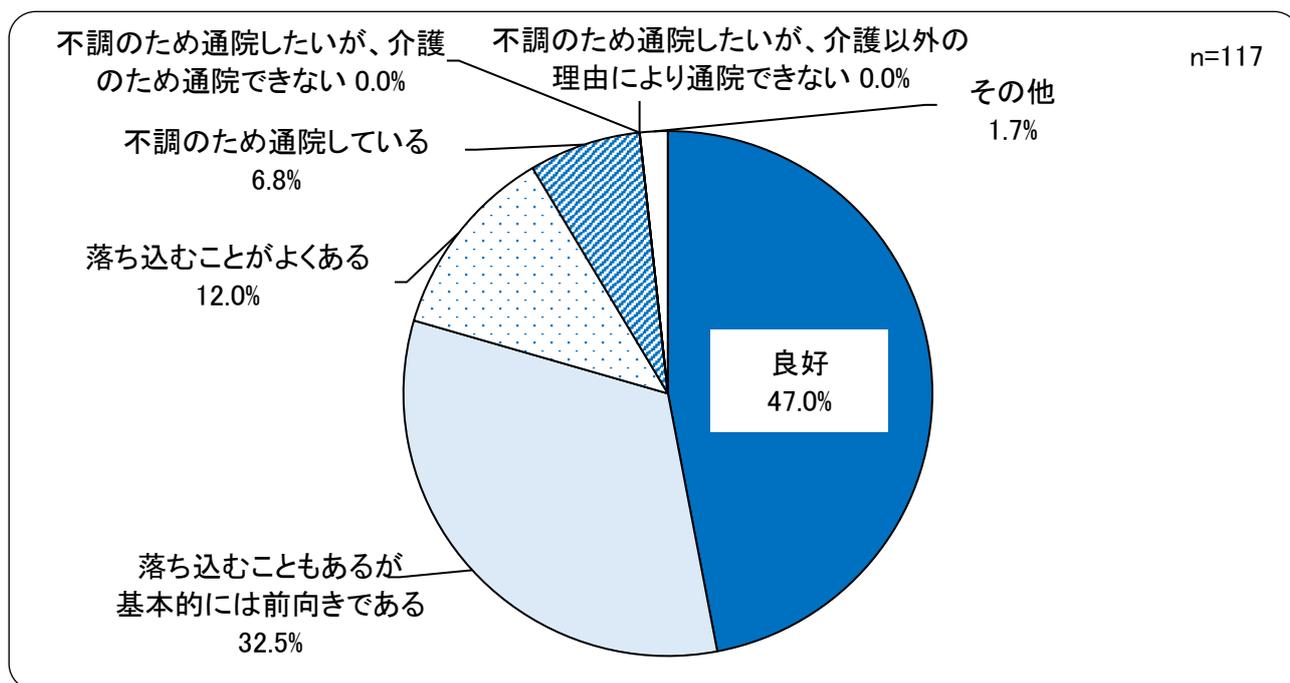
- (介助者の)身体 の健康状況については、「良好」が 56.4%と最も多い。次いで「不良のため通院している」が 31.6%となった。「不良だが通院するほどではない」「不良のため通院している」「不良のため通院したいが、介護のため通院できない」の3つを合計した『不良』は 41.8%となった。

【医療的ケアの内容別】

	良好	不良だが通院するほどではない	不良のため通院している	不良のため通院したいが、介護のため通院できない	不良の理由により通院できない、介護以外のため通院したいが、介護	その他
(%)						
全体 (n=117)	56.4	8.5	31.6	1.7	-	1.7
人工呼吸器管理 (n=17)	35.3	17.6	35.3	5.9	-	5.9
気管切開の管理 (n=15)	53.3	13.3	26.7	6.7	-	-
鼻咽頭エアウエイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=15)	33.3	6.7	40.0	13.3	-	6.7
吸引 (n=23)	60.9	8.7	17.4	8.7	-	4.3
ネブライザーの管理 (n=6)	50.0	16.7	-	33.3	-	-
経管栄養 (n=29)	62.1	10.3	17.2	6.9	-	3.4
中心静脈カテーテルの管理 (n=2)	50.0	-	-	-	-	50.0
皮下注射 (n=18)	50.0	-	44.4	-	-	5.6
血糖管理 (n=25)	40.0	4.0	52.0	4.0	-	-
継続的な透析 (n=16)	75.0	6.3	18.8	-	-	-
導尿 (n=20)	50.0	-	45.0	-	-	5.0
排便管理 (n=41)	48.8	12.2	34.1	4.9	-	-
痙攣時の対応 (n=15)	46.7	20.0	13.3	13.3	-	6.7

- 医療的ケアの内容別でみると、「気管切開の管理」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」「中心静脈カテーテルの管理」「皮下注射」「継続的な透析」「導尿」は「良好」が50%以上となった。一方、「人工呼吸器管理」「酸素療法」「血糖管理」「排便管理」は『不良』が50%以上となった。

### 問3 精神の健康状況



- (介助者の)精神の健康状況については、「良好」が 47.0%と最も多い。次いで「落ち込むこともあるが、基本的には前向きである」が 32.5%となった。「落ち込むことがよくある」は 12.0%、「不調のため通院している」は 6.8%となった。

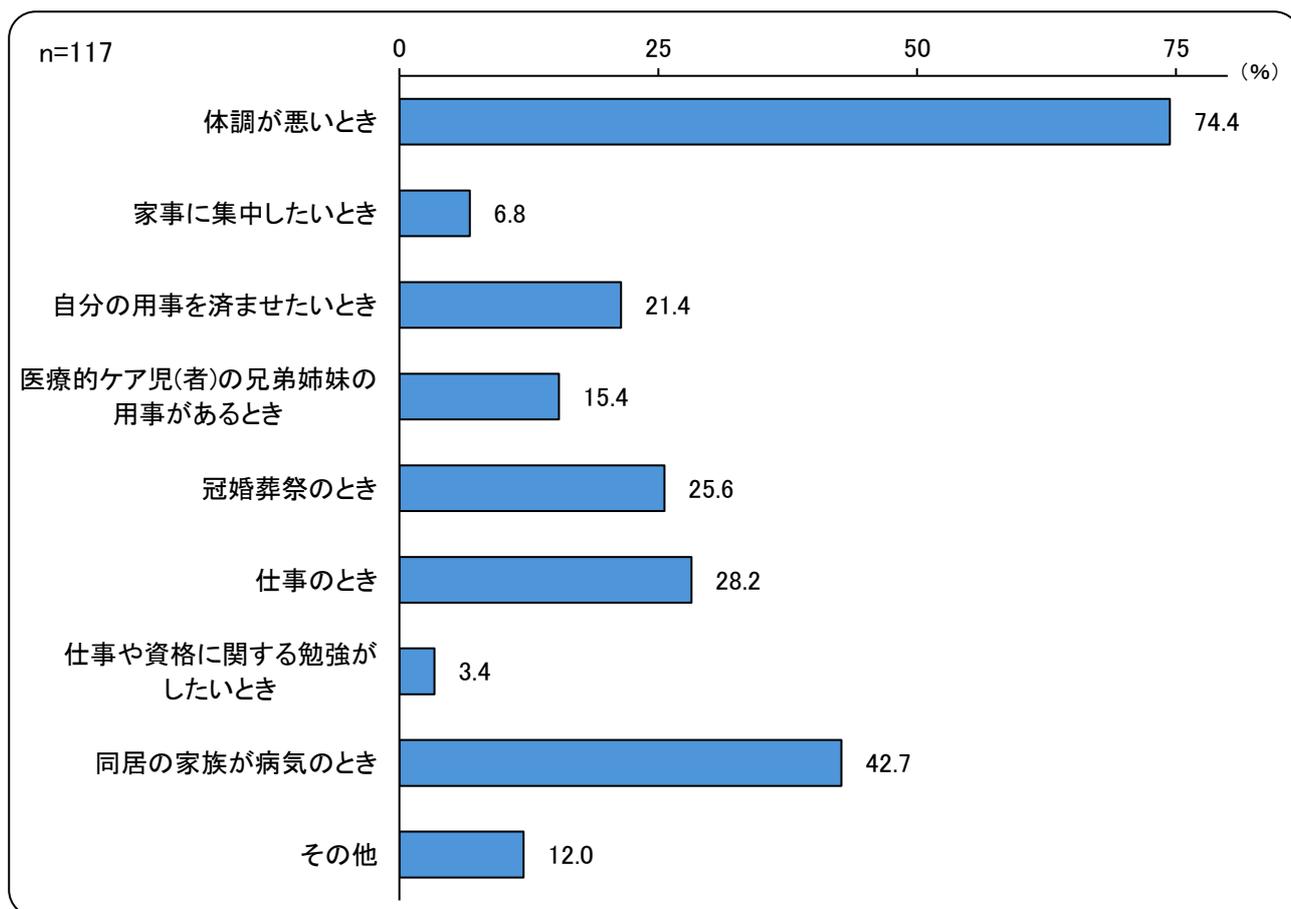
【医療的ケアの内容別】

	良好	は 落ち 前 向 き で あ る	落 ち 込 む こ と も あ る が 基 本 的 に	落 ち 込 む こ と が よ く あ る	不 調 の た め 通 院 し て い る	不 調 の た め 通 院 し た い が 、 介 護	以 外 の 理 由 に よ り 通 院 し た い が 、 介 護	そ の 他
(%)								
全体 (n=117)	47.0	32.5	12.0	6.8	-	-	-	1.7
人工呼吸器管理 (n=17)	47.1	29.4	17.6	-	-	-	-	5.9
気管切開の管理 (n=15)	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-
鼻咽頭エアウェイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=15)	40.0	46.7	6.7	-	-	-	-	6.7
吸引 (n=23)	56.5	30.4	8.7	-	-	-	-	4.3
ネブライザーの管理 (n=6)	66.7	16.7	16.7	-	-	-	-	-
経管栄養 (n=29)	55.2	27.6	13.8	-	-	-	-	3.4
中心静脈カテーテルの管理 (n=2)	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
皮下注射 (n=18)	38.9	27.8	11.1	16.7	-	-	-	5.6
血糖管理 (n=25)	48.0	24.0	20.0	8.0	-	-	-	-
継続的な透析 (n=16)	68.8	18.8	-	12.5	-	-	-	-
導尿 (n=20)	45.0	35.0	10.0	5.0	-	-	-	5.0
排便管理 (n=41)	46.3	34.1	14.6	4.9	-	-	-	-
痙攣時の対応 (n=15)	33.3	40.0	13.3	6.7	-	-	-	6.7

- 医療的ケアの内容別でみると、「気管切開の管理」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」「継続的な透析」は「良好」が5割を超える。  
「人工呼吸器管理」「ネブライザーの管理」「血糖管理」は「落ち込むことがよくある」が約2割となった。  
「皮下注射」は「不調のため通院している」が約2割となった。

#### 問4 医療的ケアを代わりに頼みたいとき(複数選択可)

複数回答



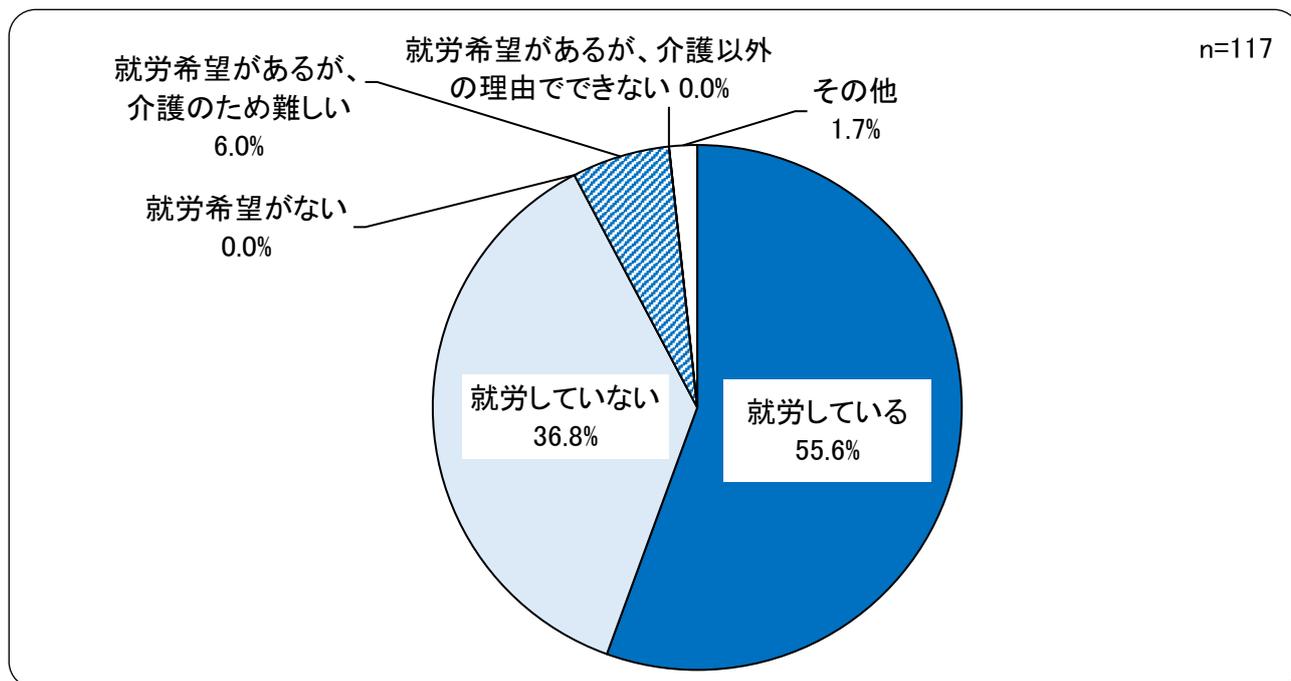
- 医療的ケアを代わりに頼みたいときについては、「体調が悪いとき」が 74.4%と最も多い。次いで「同居の家族が病気の時」が 42.7%となった。介助者本人や家族の体調が悪いときには代わりに頼みたいとの回答が多数となった。また、「自分の用事を済ませたいとき」「冠婚葬祭のとき」「仕事のとき」も 20%を超える。

【医療的ケアの内容別】

(%)	体調が悪いとき	家事に集中したいとき	自分の用事を済ませたいとき	医療的ケア児（者）の兄弟姉妹の用事があるとき	冠婚葬祭のとき	仕事するとき	仕事や資格に関する勉強がしたいとき	同居の家族が病気の時	その他
全体 (n=117)	74.4	6.8	21.4	15.4	25.6	28.2	3.4	42.7	12.0
人工呼吸器管理 (n=17)	82.4	23.5	52.9	29.4	64.7	29.4	11.8	52.9	-
気管切開の管理 (n=15)	80.0	40.0	53.3	33.3	66.7	20.0	20.0	60.0	13.3
鼻咽頭エアウェイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=15)	73.3	20.0	40.0	26.7	60.0	20.0	-	60.0	6.7
吸引 (n=23)	87.0	26.1	47.8	30.4	60.9	26.1	13.0	47.8	8.7
ネブライザーの管理 (n=6)	100.0	33.3	50.0	33.3	100.0	33.3	16.7	66.7	-
経管栄養 (n=29)	86.2	17.2	37.9	31.0	58.6	34.5	10.3	58.6	6.9
中心静脈カテーテルの管理 (n=2)	100.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-
皮下注射 (n=18)	77.8	-	11.1	5.6	5.6	22.2	-	27.8	11.1
血糖管理 (n=25)	80.0	-	32.0	4.0	24.0	32.0	-	40.0	8.0
継続的な透析 (n=16)	75.0	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	-	37.5	6.3
導尿 (n=20)	70.0	5.0	15.0	20.0	35.0	5.0	-	40.0	30.0
排便管理 (n=41)	75.6	12.2	26.8	19.5	41.5	31.7	4.9	48.8	14.6
痙攣時の対応 (n=15)	80.0	13.3	40.0	33.3	60.0	26.7	13.3	60.0	6.7

- 医療的ケアの内容別で見ると、全ての医療的ケアで「体調が悪いとき」は70%以上となった。
- 「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「ネブライザーの管理」は「自分の用事を済ませたいとき」「冠婚葬祭のとき」「同居の家族が病気の時」が50%以上となった。
- 「酸素療法」「経管栄養」は「冠婚葬祭のとき」「同居の家族が病気の時」が50%以上となった。
- 「吸引」は「冠婚葬祭のとき」が50%以上となった。
- 「中心静脈カテーテルの管理」は「仕事するとき」が50%以上となった。
- 「痙攣時の対応」は「冠婚葬祭のとき」「同居の家族が病気の時」が50%以上となった。

## 問5 就労の状況



- (介助者の)就労の状況については、「就労している」が55.6%と最も多い。「就労していない」は36.8%、「就労希望があるが、介護のため難しい」が6.0%となった。「就労していない」と「就労希望があるが、介護のため難しい」を合計した『未就労』は42.8%となった。

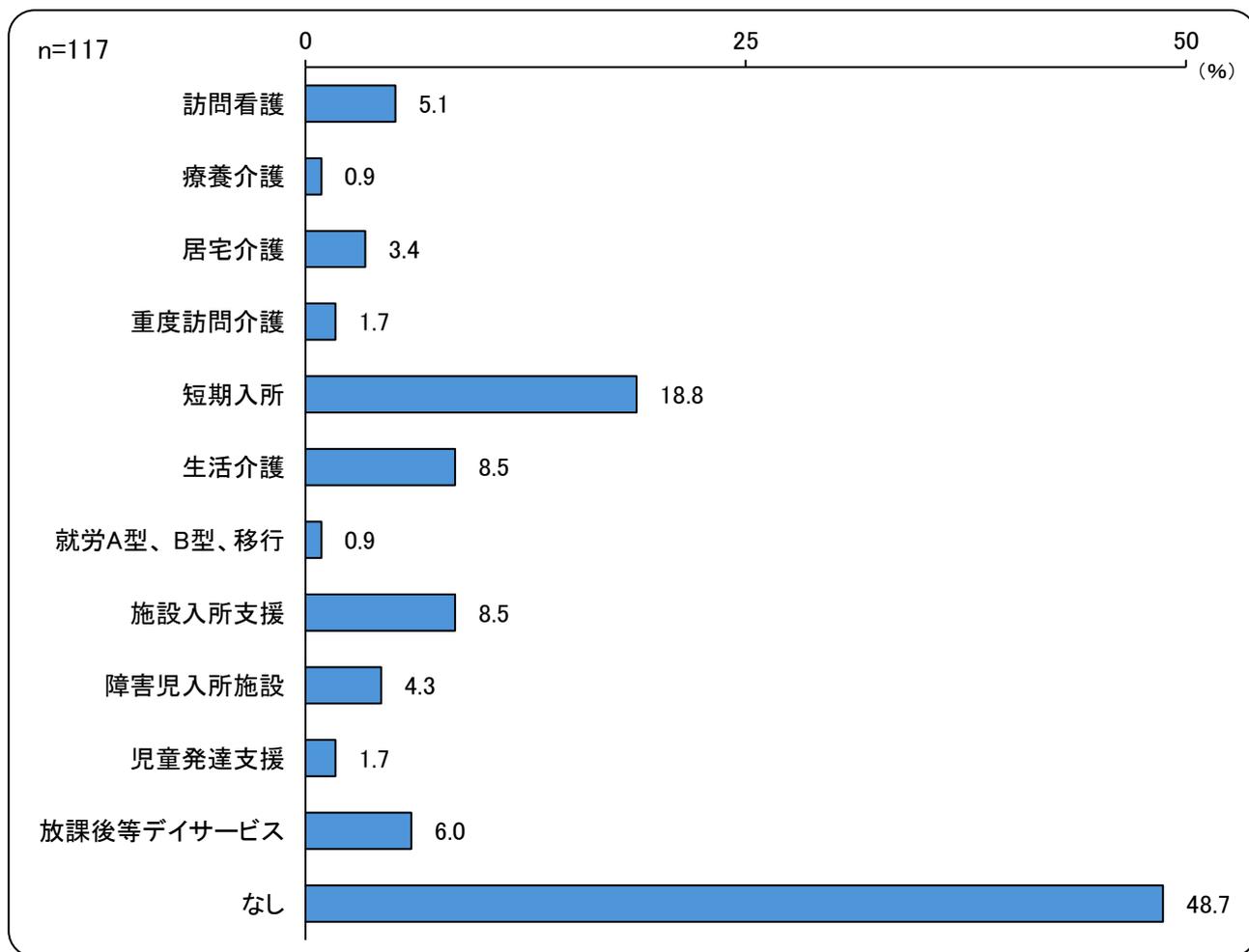
【医療的ケアの内容別】

	就 労 し て い る	就 労 し て い な い	就 労 希 望 が な い	就 労 希 望 が あ る が 、 介 護 の た め 難 し い	就 労 希 望 が あ る が 、 介 護 以 外 の 理 由 で で き な い	そ の 他
(%)						
全体 (n=117)	55.6	36.8	-	6.0	-	1.7
人工呼吸器管理 (n=17)	41.2	52.9	-	5.9	-	-
気管切開の管理 (n=15)	26.7	53.3	-	20.0	-	-
鼻咽頭エアウエイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=15)	20.0	66.7	-	13.3	-	-
吸引 (n=23)	39.1	47.8	-	13.0	-	-
ネブライザーの管理 (n=6)	16.7	66.7	-	16.7	-	-
経管栄養 (n=29)	48.3	44.8	-	6.9	-	-
中心静脈カテーテルの管理 (n=2)	50.0	50.0	-	-	-	-
皮下注射 (n=18)	44.4	55.6	-	-	-	-
血糖管理 (n=25)	68.0	32.0	-	-	-	-
継続的な透析 (n=16)	56.3	37.5	-	-	-	6.3
導尿 (n=20)	20.0	65.0	-	15.0	-	-
排便管理 (n=41)	43.9	41.5	-	12.2	-	2.4
痙攣時の対応 (n=15)	53.3	33.3	-	13.3	-	-

- 医療的ケアの内容別でみると、「血糖管理」「継続的な透析」「痙攣時の対応」は「就労している」が5割を超える。  
「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「酸素療法」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」「皮下注射」「導尿」「排便管理」は「未就労」が5割を超える。

問 6 利用したいが不足していると感じているサービス(複数選択可)

複数回答



- 利用したいが不足していると感じているサービスについては、「なし」が 48.7%と最も多い。「なし」を除いたサービスでは、「短期入所」が 18.8%となった。他のサービスについては1割以下となった。

【医療的ケアの内容別】

	訪問看護	療養介護	居宅介護	重度訪問介護	短期入所	生活介護	就労A型、B型、移行	施設入所支援	障害児入所施設	児童発達支援	放課後等デイサービス	なし	その他
(%)													
全体(n=117)	5.1	0.9	3.4	1.7	18.8	8.5	0.9	8.5	4.3	1.7	6.0	48.7	12.8
人工呼吸器管理(n=17)	5.9	-	-	-	52.9	17.6	-	-	-	-	5.9	17.6	11.8
気管切開の管理(n=15)	6.7	-	-	-	73.3	-	-	-	-	-	6.7	6.7	13.3
鼻咽頭エアウエイの管理(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法(n=15)	6.7	-	-	-	53.3	6.7	-	-	-	-	6.7	13.3	20.0
吸引(n=23)	4.3	-	-	-	65.2	4.3	-	-	4.3	-	17.4	13.0	8.7
ネブライザーの管理(n=6)	16.7	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	16.7	-	-
経管栄養(n=29)	3.4	-	3.4	-	55.2	3.4	-	3.4	6.9	-	10.3	20.7	13.8
中心静脈カテーテルの管理(n=2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
皮下注射(n=18)	5.6	-	-	-	5.6	16.7	-	-	-	5.6	-	72.2	5.6
血糖管理(n=25)	8.0	4.0	4.0	-	8.0	20.0	4.0	8.0	-	4.0	4.0	48.0	12.0
継続的な透析(n=16)	6.3	-	6.3	-	6.3	6.3	-	6.3	-	-	-	68.8	12.5
導尿(n=20)	5.0	-	-	5.0	15.0	5.0	-	10.0	-	-	5.0	50.0	20.0
排便管理(n=41)	2.4	-	-	4.9	29.3	7.3	-	9.8	9.8	2.4	9.8	41.5	7.3
痙攣時の対応(n=15)	6.7	-	6.7	-	60.0	13.3	-	20.0	-	-	13.3	13.3	6.7

- 医療的ケアの内容別でみると、「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「酸素療法」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」「痙攣時の対応」は「短期入所」が5割を超える。  
一方、「中心静脈カテーテルの管理」「皮下注射」「継続的な透析」「導尿」は「なし」が50%以上となった。

【医療的ケアの内容別・短期入所が不足と感じる理由】

	利用できる回数や時間が十分でない	専門性や安全性が十分でない	利用したい施設の定員が超過している	医療的ケアに対応できる事業所が少ない	職員（看護師等）が不足している	医療的ケアに対応できる専門性を持った事業所が遠い	送迎サービスがない	緊急時対応や夜間対応の受け入れがない	その他	無回答
(%)										
全体 (n=22)	13.6	18.2	9.1	54.5	13.6	54.5	9.1	22.7	13.6	4.5
人工呼吸器管理 (n=9)	22.2	11.1	11.1	66.7	33.3	55.6	-	22.2	-	-
気管切開の管理 (n=11)	9.1	-	9.1	63.6	9.1	63.6	9.1	27.3	-	9.1
鼻咽頭エアウエイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=8)	25.0	12.5	12.5	87.5	25.0	62.5	12.5	50.0	-	-
吸引 (n=15)	13.3	13.3	13.3	60.0	13.3	66.7	13.3	33.3	6.7	6.7
ネブライザーの管理 (n=4)	-	-	-	75.0	25.0	75.0	25.0	50.0	-	-
経管栄養 (n=16)	12.5	18.8	12.5	68.8	12.5	62.5	12.5	31.3	6.3	6.3
中心静脈カテーテルの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮下注射 (n=1)	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
血糖管理 (n=2)	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
継続的な透析 (n=1)	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
導尿 (n=3)	-	-	-	66.7	-	-	-	33.3	33.3	-
排便管理 (n=12)	8.3	16.7	-	66.7	16.7	50.0	8.3	33.3	8.3	8.3
痙攣時の対応 (n=9)	22.2	22.2	11.1	77.8	22.2	55.6	-	22.2	11.1	-

- 医療的ケアの内容別で短期入所が不足と感じる理由をみると、「人工呼吸器管理」「気管切開の管理」「酸素療法」「吸引」「ネブライザーの管理」「経管栄養」「排便管理」「痙攣時の対応」は「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」「事業所が遠い」が50%以上となった。  
「酸素療法」「ネブライザーの管理」は「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」「事業所が遠い」「緊急時対応や夜間対応の受け入れがない」が50%以上となった。

「皮下注射」「血糖管理」は「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」「医療的ケアに対応できる専門性を持った職員（看護師等）が不足している」が50%以上となった。

【短期入所の「事業所が遠い」・お住まいの地域】

お住まいの地域	人数	(全体)%
磐田地区	10	83.3
福田地区	0	0.0
竜洋地区	0	0.0
豊田地区	1	8.3
豊岡地区	1	8.3
合計	12	

- 短期入所が不足と感じる理由で「事業所が遠い」と回答した方のお住まいの地域は、「磐田地区」が10人、「豊田地区」「豊岡地区」が1人となった。

【医療的ケアの内容別・生活介護が不足と感じる理由】

	利用できる回数や時間が十分でない	専門性や安全性が十分でない	利用したい施設の定員が超過している	医療的ケアに対応できる事業所が少ない	職員（看護師等）が不足している	医療的ケアに対応できる専門性を持った事業所が遠い	送迎サービスがない	緊急時対応や夜間対応の受け入れがない	その他
(%)									
全体 (n=10)	50.0	20.0	10.0	20.0	20.0	-	10.0	40.0	-
人工呼吸器管理 (n=3)	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-
気管切開の管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鼻咽喉頭エアウエイの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法 (n=1)	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-
吸引 (n=1)	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-
ネブライザーの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
経管栄養 (n=1)	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-	100.0	-
中心静脈カテーテルの管理 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮下注射 (n=3)	-	-	-	66.7	33.3	-	33.3	-	-
血糖管理 (n=5)	60.0	20.0	-	40.0	20.0	-	-	20.0	-
継続的な透析 (n=1)	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
導尿 (n=1)	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-
排便管理 (n=3)	66.7	33.3	33.3	-	33.3	-	-	66.7	-
痙攣時の対応 (n=2)	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	100.0	-

➤ 医療的ケアの内容別で生活介護が不足と感じる理由をみると、「人工呼吸器管理」は「利用できる回数や時間が十分でない」が最も多い。

「酸素療法」「吸引」「経管栄養」は「利用できる回数や時間が十分でない」「専門性や安全性が十分でない」「利用したい施設の定員が超過している」「緊急時対応や夜間対応の受け入れがない」と回答している。

「皮下注射」は「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」が最も多い。

「排便管理」は「利用できる回数や時間が十分でない」「緊急時対応や夜間対応の受け入れがない」が多い。

「痙攣時の対応」は「緊急時対応や夜間対応の受け入れがない」が最も多い。

【医療的ケアの内容・放課後等デイサービスが不足と感じる理由】

	利用できる回数や時間が十分でない	専門性や安全性が十分でない	利用したい施設の定員が超過している	医療的ケアに対応できる事業所が少ない	職員（看護師等）が不足している	医療的ケアに対応できる専門性を持った事業所が遠い	送迎サービスがない	緊急時対応や夜間対応の受け入れがない	その他
(%)									
全体(n=7)	71.4	28.6	57.1	71.4	14.3	71.4	28.6	14.3	-
人工呼吸器管理(n=1)	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
気管切開の管理(n=1)	100.0	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-
鼻咽喉頭エアウエイの管理(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
酸素療法(n=1)	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
吸引(n=4)	75.0	25.0	75.0	75.0	-	75.0	25.0	-	-
ネブライザーの管理(n=1)	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
経管栄養(n=3)	66.7	-	66.7	100.0	-	66.7	33.3	-	-
中心静脈カテーテルの管理(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮下注射(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
血糖管理(n=1)	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-
継続的な透析(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
導尿(n=1)	-	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-
排便管理(n=4)	50.0	25.0	50.0	75.0	25.0	75.0	25.0	25.0	-
痙攣時の対応(n=2)	50.0	-	50.0	100.0	-	100.0	-	-	-

- 医療的ケアの内容別で放課後等デイサービスが不足と感じる理由をみると、「人工呼吸器管理」「酸素療法」「ネブライザーの管理」「血糖管理」は「利用したい施設の定員が超過している」「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」「事業所が遠い」と全員が回答している。  
「気管切開の管理」は「利用できる回数や時間が十分でない」「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」「事業所が遠い」と回答している。

「吸引」は「利用できる回数や時間が十分でない」「利用したい施設の定員が超過している」「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」「事業所が遠い」が多い。

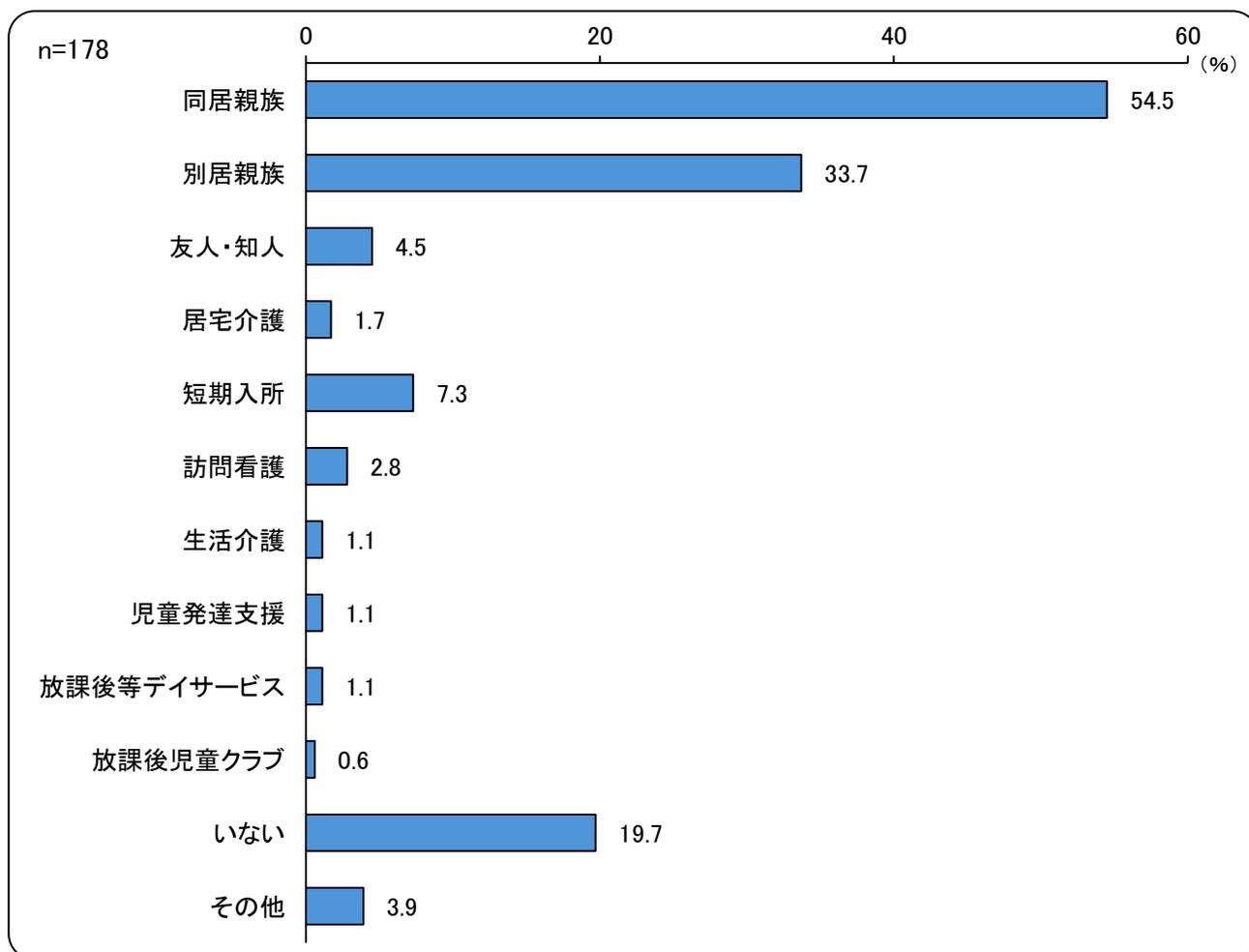
「経管栄養」は「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」が最も多い。

「排便管理」「痙攣時の対応」は「医療的ケアに対応できる事業所が少ない」「事業所が遠い」が多い。

問7 緊急時(※)に医療的ケアが必要な方の介助が困難な場合、対応を頼める相手(複数選択可)

※主な介助者の急用、急病、入院等

複数回答



- 緊急時に医療的ケアが必要な方の介助が困難な場合、対応を頼める相手については、「同居親族」が54.5%と最も多い。次いで「別居親族」が33.7%となった。一方、「いない」は19.7%と3番目に多い回答となった。

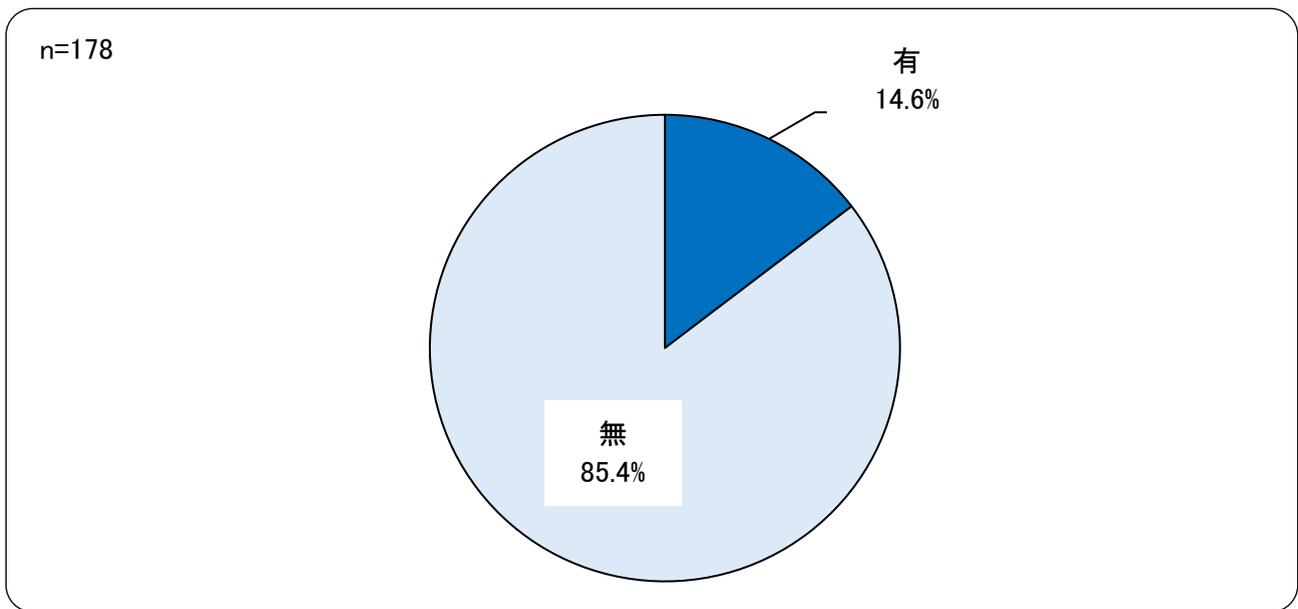
【対応を頼める相手がない方・医療的ケアの内容】

複数回答

医療的ケアの内容	人数	(全体)%
人工呼吸器管理	3	8.6
気管切開の管理	0	0.0
鼻咽頭エアウェイの管理	0	0.0
酸素療法	0	0.0
吸引	1	2.9
ネブライザーの管理	0	0.0
経管栄養	2	5.7
中心静脈カテーテルの管理	0	0.0
皮下注射	7	20.0
血糖管理	15	42.9
継続的な透析	7	20.0
導尿	4	11.4
排便管理	5	14.3
痙攣時の対応	1	2.9
合計	35	

- 緊急時に医療的ケアが必要な方の介助が困難な場合、対応を頼める相手がないと答えた方の医療的ケアの内容については、「血糖管理」が15人と最も多く、次いで「皮下注射」「継続的な透析」が7人となった。

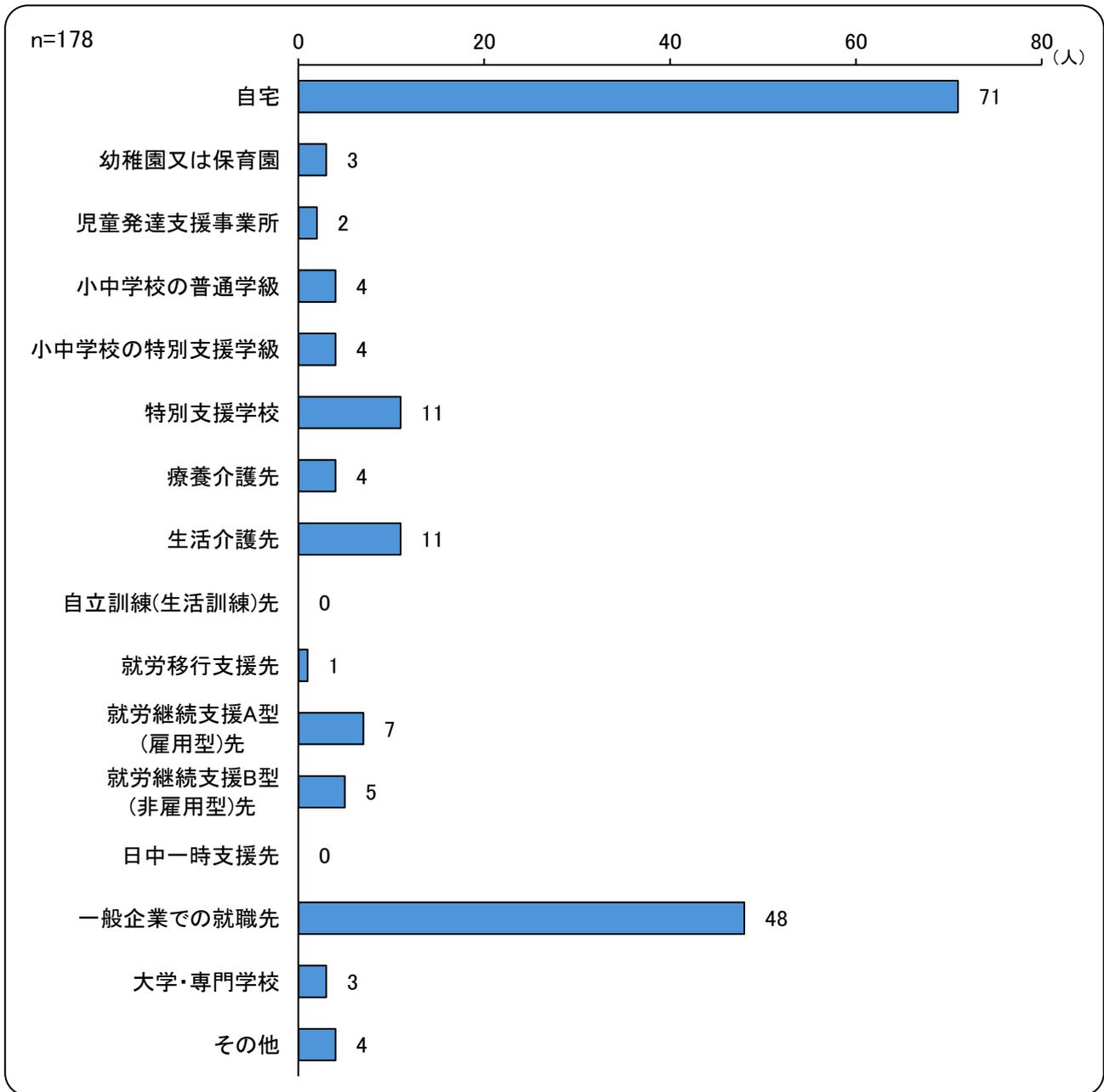
問 8 緊急時受け入れ対応に係る事前登録の有無



- 緊急時受け入れ対応に係る事前登録の有無については、「有」が14.6%、「無」が85.4%となった。

### 3 医療的ケアが必要な方の日中の居場所について教えてください

#### 問1 日中の主な居場所

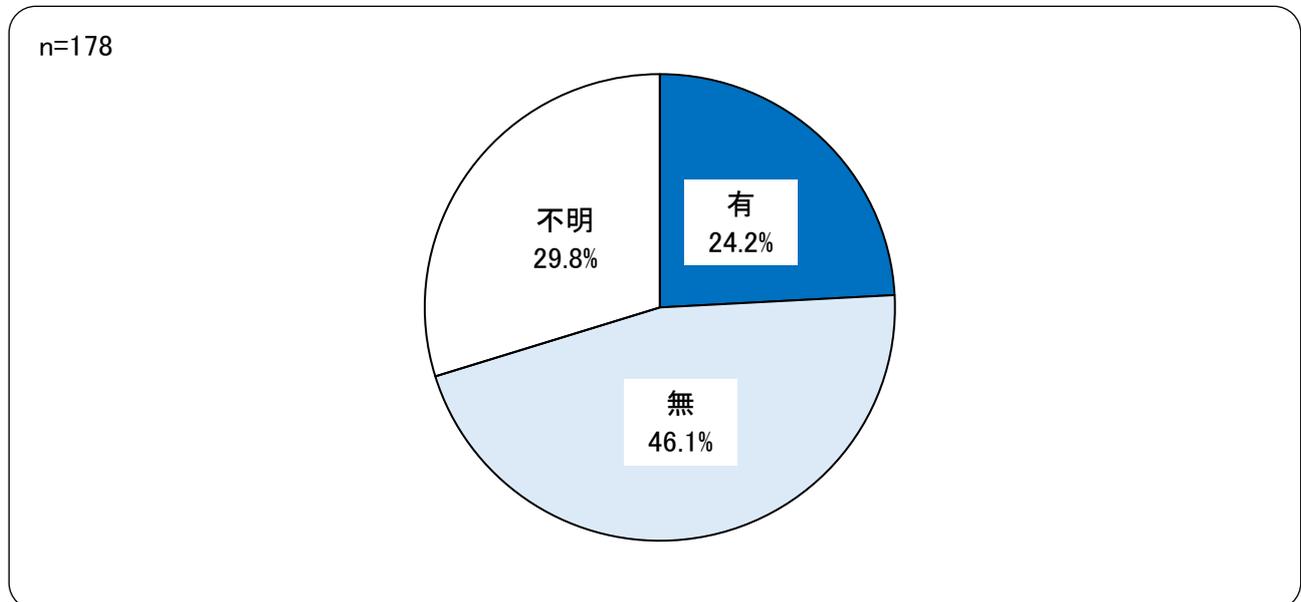


- 医療的ケアが必要な方の日中の主な居場所については、「自宅」が71人と最も多い。次いで「一般企業での就職先」が48人となった。「特別支援学校」「生活介護先」が11人となり、他の回答は10人未満となった。

#### 4 災害時への対策について教えてください

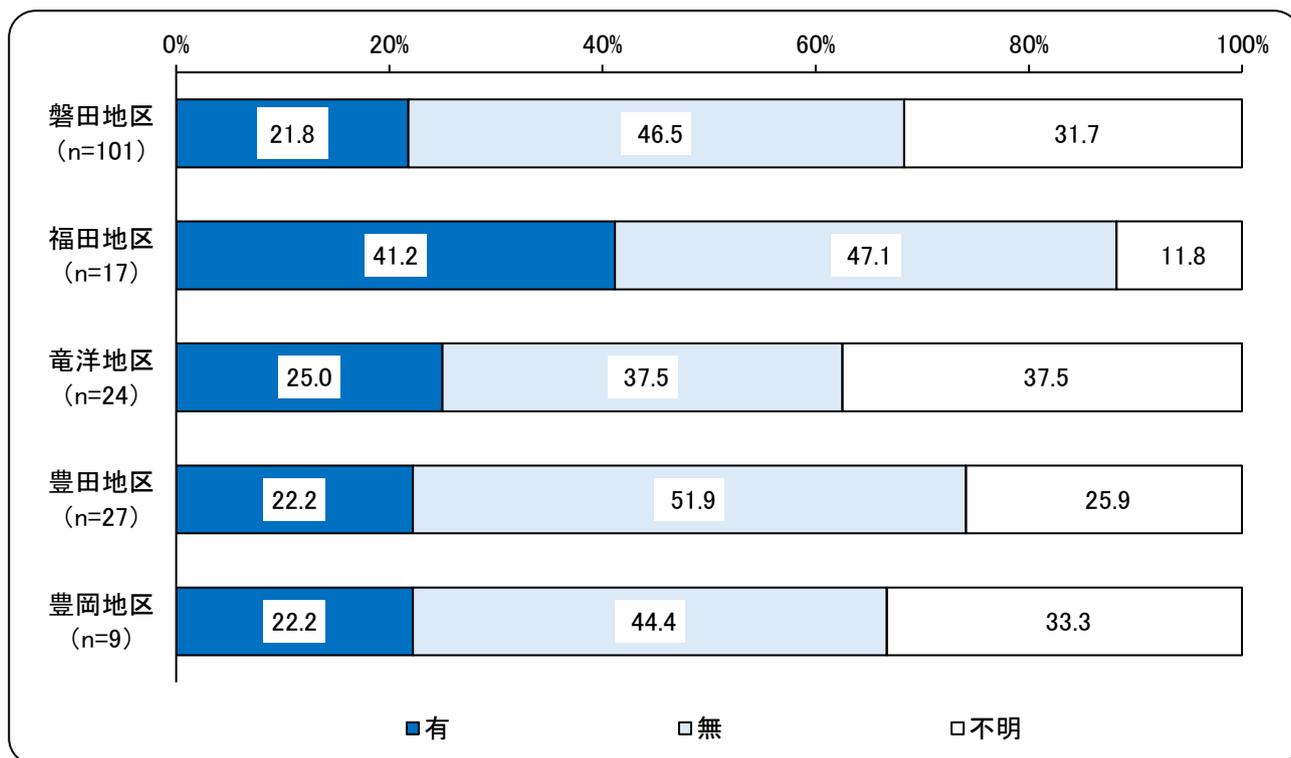
問1 災害時の避難行動要支援者名簿(※)への登録の有無

※自治会が作成



- 災害時の避難行動要支援者名簿への登録の有無については、「有」が 24.2%、「無」が 46.1%となった。「不明」は 29.8%となった。

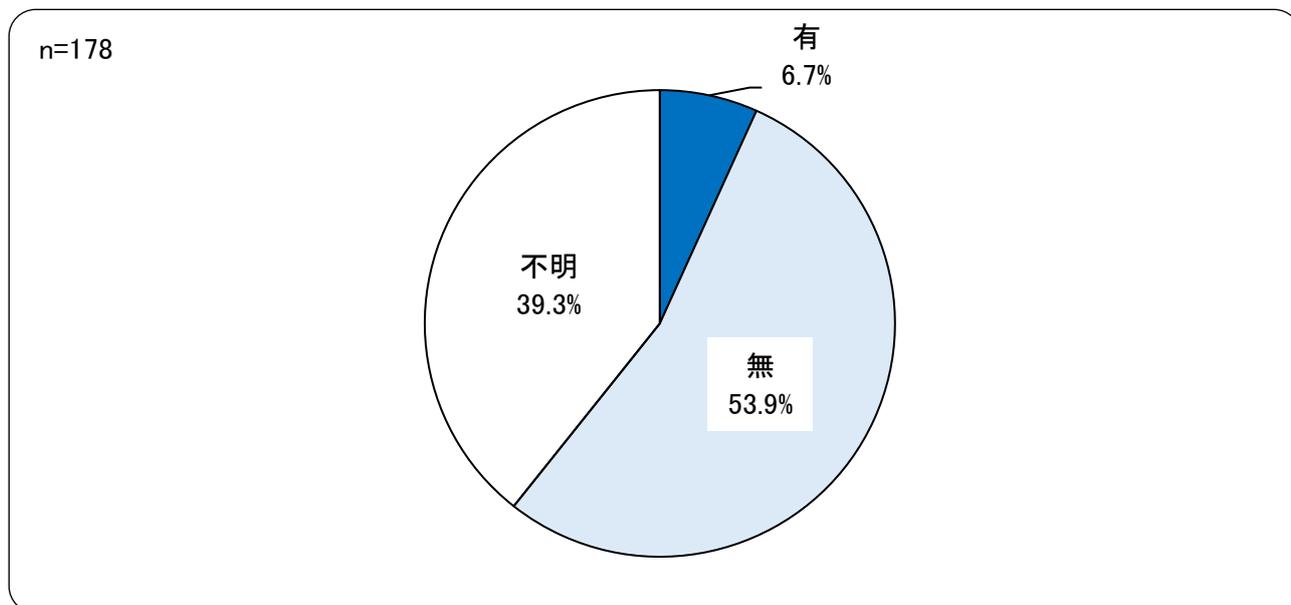
【地域別】



- 地域別でみると、「磐田地区」は「有」が21.8%、「無」が46.5%、「不明」が31.7%となった。  
 「福田地区」は「有」が41.2%、「無」が47.1%、「不明」が11.8%となった。  
 「竜洋地区」は「有」が25.0%、「無」が37.5%、「不明」が37.5%となった。  
 「豊田地区」は「有」が22.2%、「無」が51.9%、「不明」が25.9%となった。  
 「豊岡地区」は「有」が22.2%、「無」が44.4%、「不明」が33.3%となった。

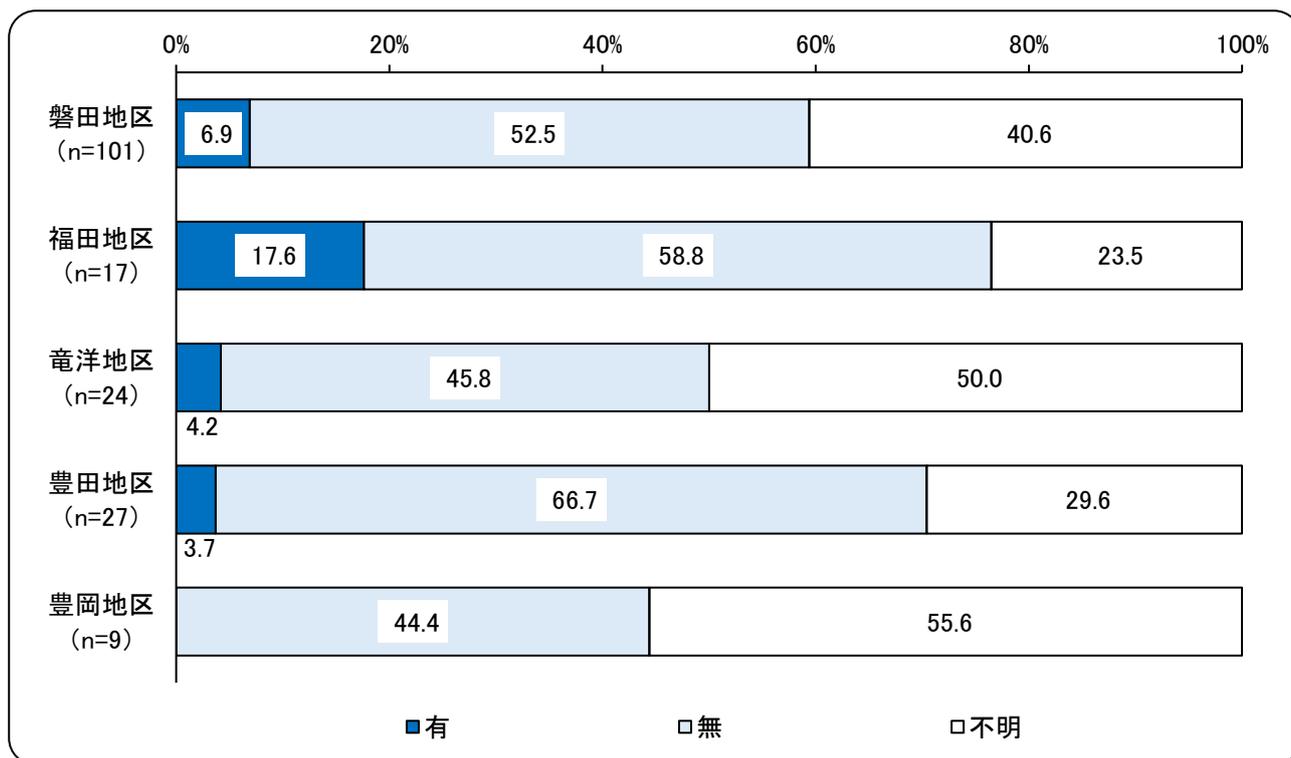
## 問 2 個別避難計画(※)の作成の有無

※医療的ケアを受けられている方の避難支援方法を記したもの(自治会等が作成)



- 個別避難計画の作成の有無については、「有」が 6.7%、「無」が 53.9%となった。「不明」は 39.3%となった。

## 【地域別】

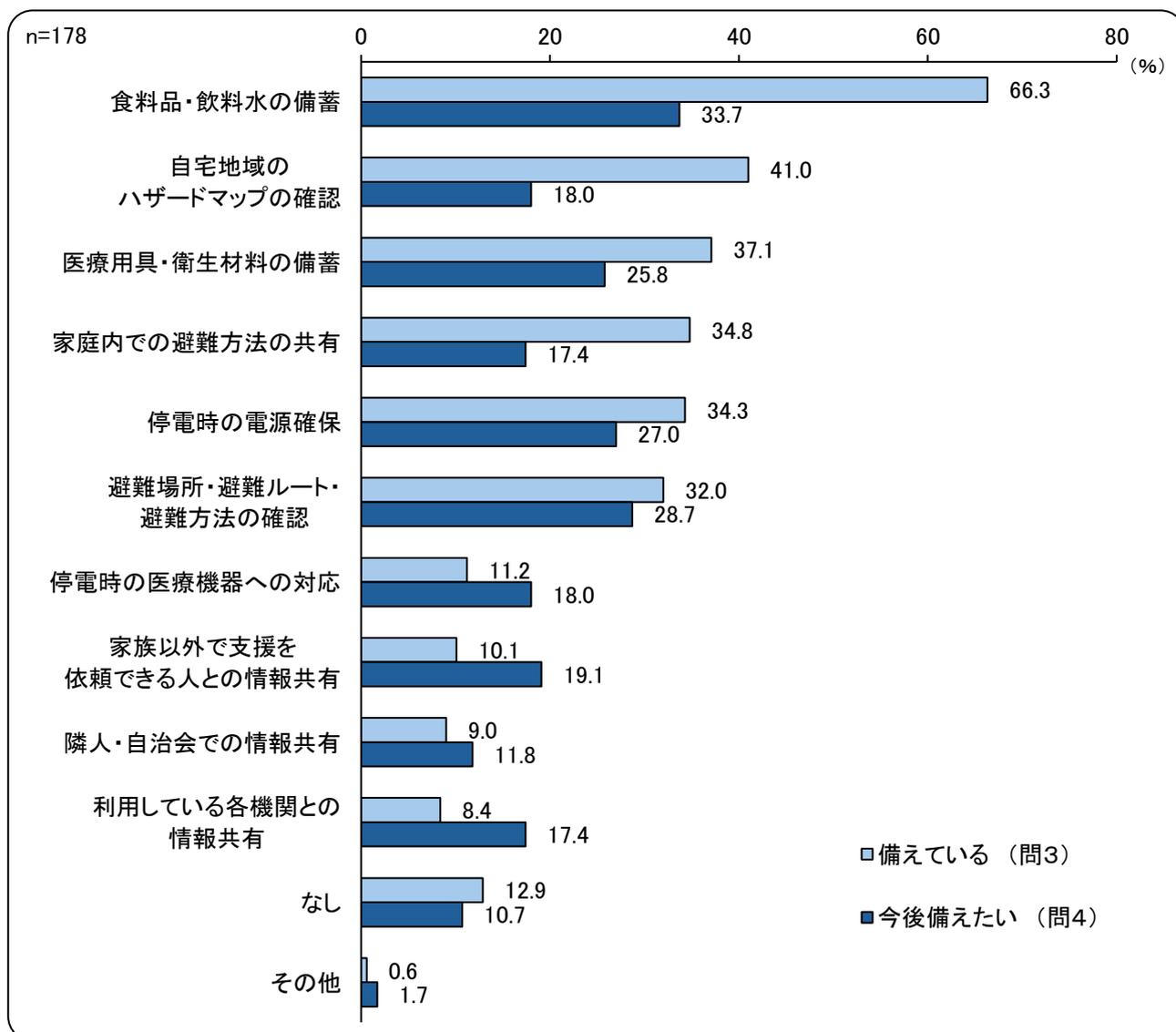


- 地域別でみると、「磐田地区」は「有」が6.9%、「無」が52.5%、「不明」が40.6%となった。  
「福田地区」は「有」が17.6%、「無」が58.8%、「不明」が23.5%となった。  
「竜洋地区」は「有」が4.2%、「無」が45.8%、「不明」が50.0%となった。  
「豊田地区」は「有」が3.7%、「無」が66.7%、「不明」が29.6%となった。  
「豊岡地区」は「無」が44.4%、「不明」が55.6%となった。

問3 災害時に備えていること(複数選択可)

問4 今後備えたいこと(複数選択可)

複数回答



- 問3 災害時に備えていることについては、「食料品・飲料水の備蓄」が 66.3%と最も多い。次いで「自宅地域のハザードマップの確認」が41.0%、3番目は「医療用具・衛生材料の準備」が37.1%となった。  
「家庭内での避難方法の共有」「停電時の電源確保」「避難場所・避難ルート・避難方法の確認」も3割を超える。
- 問4 今後備えたいことについては、「食料品・飲料水の備蓄」が 33.7%と最も多い。次いで「避難場所・避難ルート・避難方法の確認」が 28.7%、3番目は「停電時の電源確保」が 27.0%となった。「医療用具・衛生材料の備蓄」も 25.8%と2割を超える。
- 「医療用具・衛生材料の備蓄」については、37.1%が「備えている」と回答しているものの、25.8%が「今後備えたい」と回答している。ケア用品のストックは日常的にしている、災害用としての十分な量は確保できていないとの考えが推測される。

- 「停電時の電源確保」については、34.3%が「備えている」と回答しているものの、27.0%が「今後備えたい」と回答している。  
また、「停電時の医療機器への対応」については、11.2%が「備えている」と回答しているものの、18.0%が「今後備えたい」と回答している。  
「停電時の電源確保」と「停電時の医療機器への対応」は、人工呼吸器や吸引などの電源確保の高いケアを必要としている方にとっては、大きな課題と考えられる。
- 「家族以外で支援を依頼できる人との情報共有」は「備えている」が10.1%、「隣人・自治会での情報共有」は「備えている」が9.0%と、低い回答割合となっている。まずは自治会や地域、支援者などで災害時に備えた情報共有と支援体制を整えることが必要である。

## 5 支援について

### 問1 行政に求める支援

分類	件数	内容
施設・サービスの拡充	19	医療的ケア児(者)が利用できる入所施設、短期入所(ショートステイ)、放課後等デイサービスなどの増設や拡充を求める意見。
災害・緊急時対応の強化	18	災害時の避難所の確保、電源や医療物資の備蓄、透析などの医療体制の維持、安否確認や情報伝達体制の強化に関する要望。
経済的支援の拡充	17	医療費や補装具・消耗品購入への助成拡大、各種手当の増額、税金の軽減など、金銭的な負担軽減を求める意見。
情報提供・周知の強化	12	利用できる福祉・医療サービスや制度に関する情報が不足しているため、一覧性の高い資料の提供やWebサイトの充実を求める意見。
行政・医療機関への要望	12	職員の対応改善、手続きのオンライン化や休日対応、医療の質向上、障害福祉制度全般の充実など、行政や医療機関に対する要望。
移動・交通・バリアフリー化	10	公共交通(デマンドタクシー等)の拡充、公共施設のバリアフリー化(ユニバーサルシート設置等)、安全な道路整備など移動に関する要望。
交流・相談の場の創出	8	同じ悩みや病気を持つ当事者やその家族が、情報交換や精神的な支えを得るための交流の場やコミュニティを求める意見。
家族・介護者支援	7	介護者の休息(レスパイト)のためのサービス拡充、きょうだい児への支援、介護者が体調不良の際のサポート体制の強化を求める意見。
人材確保・待遇改善	5	介護職員や支援員の不足を解消するための、賃金アップなどの待遇改善や人材育成の強化を求める意見。
教育・保育の支援	5	幼稚園・保育園や学校での受け入れ体制の強化、送迎の負担軽減、支援員の加配など、教育・保育現場でのサポートに関する要望。
その他	9	上記の категорияに分類できない複合的な意見や、感謝の言葉など。

## 問2 地域に求める支援

分類	件数	内容
施設のバリアフリー化	10	車椅子で利用できる店舗、公共施設、トイレの増設や段差解消など、物理的な環境整備を求める意見。
移動支援・交通インフラ	8	公共交通機関(バス、電車、駅)のバリアフリー化や、福祉タクシーの利便性向上など移動に関する支援を求める意見。
理解促進・啓発	6	周囲の人々や社会全体に対して、障害への正しい理解や配慮、コミュニケーションを求める意見。
情報提供・相談体制	5	利用できる制度やサービスに関する情報の分かりやすさ、相談窓口の明確化や充実を求める意見。
介助者・家族支援	4	ヘルパー不足の解消や待遇改善、介助者や家族の休息(レスパイト)や負担軽減に関する支援を求める意見。
経済的支援	3	障害者手当や助成金の増額、医療費の負担軽減など、金銭的な支援の拡充を求める意見。
就労支援	3	障害者雇用機会の拡大や、職場で働き続けるためのサポート体制の充実を求める意見。
交流・社会参加の機会	3	障害者が気軽に参加できるイベントや、同じ悩みを持つ人々との交流の場の創出を求める意見。
医療・福祉サービス	2	病院での配慮や、既存の福祉サービス(デイサービス等)の質の向上や利用しやすさを求める意見。
その他	3	防災対策、行政手続きの簡素化、教育現場でのサポートなど、上記のカテゴリーに分類できない意見。

### 問3 医療機関や福祉事業所に求める支援

分類	件数	内容
利用時間の延長・拡充	12	預かり時間の延長や早朝・夜間、長期休暇中の対応など、サービス提供時間の拡大に関する要望。
オンライン化・IT活用	10	オンラインでの相談、情報共有、手続きの簡略化など、ICT技術の活用を求める意見。
医療・看護体制の強化	8	医療的ケアが可能な職員の配置、訪問看護の充実、専門的な医療対応などに関する要望。
相談体制の充実	8	日常的な不安から専門的な内容(親亡き後など)まで、気軽に相談できる窓口や機会を求める意見。
災害時の支援体制	7	災害発生時の避難、医薬品・物資の確保、安否確認など、非常時の備えや対応に関する要望・不安。
緊急時対応・ショートステイ	6	保護者の体調不良時など、突発的な事態に対応できる一時預かりやショートステイ先の確保を求める意見。
人材育成・サービス品質向上	4	職員の専門性やスキル向上、利用者へ寄り添った対応など、支援の質向上を求める意見。
感謝・満足	4	提供されているサービスに対する感謝や満足を示す肯定的な意見。
送迎・アクセス改善	4	自宅への送迎サービス、事業所や病院へのアクセス(距離、駐車場、バリアフリー)の改善に関する要望。
通院・受診環境の改善	3	病院での待ち時間短縮、診療科間の連携、医療技術の向上など、受診時の負担軽減に関する要望。
その他	4	いずれの категорияにも分類が難しい、個別具体的な要望や意見。

問4 今後の生活を送る上での困り事、心配事について教えてください。

分類	件数	内容
親亡き後の生活	12	親や主な介助者がいなくなった後の、本人の生活の場(グループホーム等)、財産管理(後見人制度)、日々の支援体制に関する不安。
経済的な不安	11	医療費、光熱費、将来の生活費など、経済的な負担や困窮に関する将来への不安。
介助者の高齢化・不在	9	親や介助者自身が高齢になったり、病気になったりして、現在の介助が続けられなくなることへの心配。
緊急時・災害時の対応	8	介助者の急病といった緊急時の預け先や、災害時の避難、医療(停電時の電源確保など)の継続に関する不安。
サービス・施設の不足	6	医療的ケアが必要な子どもや重度障害者が利用できる短期入所(ショートステイ)や日中一時支援、放課後デイなどの施設不足に関する困りごと。
将来の生活(就労・医療)	5	本人の将来の就職活動や、継続して就労できるかという不安。また、年齢を重ねた際の医療体制に関する心配。
相談相手・精神的孤立	3	日々の悩みや将来の不安を気軽に相談できる相手がいらないことによる、精神的な孤立感や負担。
移動手段の確保	2	介助者が高齢になり車の運転ができなくなった際の、通院や買い物など日常生活での移動手段に関する不安。
その他	2	地域の医療レベルや、きょうだい児への影響など、上記のカテゴリーに分類できない複合的な悩み。



付録 調査票

---



## 【医療的ケアを必要とする方とそのご家族の暮らしに関する調査】

※この調査は医療的ケアを必要とする方の主な介助者に回答をお願いするものです。

介助者がいない場合はご本人が回答をお願いします。

### 目的及び調査対象者

目的	医療的ケアを必要とする子どもや成人の現状や課題を把握し、適切な支援につなげる。
調査対象者	① 市内在住者で社会生活を営むために医療的ケアを受けることが不可欠である方 ② 令和7年5月1日の年齢が64歳以下の方

※調査のためにいただいた情報は、取扱いに留意し目的外には使用しません。

### 1 医療的ケアを受けられている方について教えてください。

問1 年齢(令和7年5月1日時点) 必須

年齢 (     ) 歳

問2 性別 必須

男 女 回答しない その他(                     )

問3 居住状況 必須

在宅 入院 入所

問4 お住まいの地域 必須

磐田地区 福田地区 竜洋地区 豊田地区 豊岡地区

問5 家族構成(複数選択可) 必須

父母 配偶者 兄弟姉妹 祖父母 なし その他(                     )

問6 重症心身障害児(※)である 必須

※重度の肢体不自由(身体障害者手帳1、2級程度)及び重度の知的障害(療育A)を重複して有する方

はい いいえ

問7 障害者手帳の所持状況 (複数選択可) 必須

所持している手帳すべてにチェックをしてください

身体障害者手帳 療育手帳 精神障害者福祉手帳 なし

身体障害者手帳の等級

1級 2級 3級 4級 5級 6級

療育手帳の障害程度

A B

精神障害者保健福祉手帳

1級 2級 3級

問8 (日常的に行っている)医療的ケアの内容(複数選択可) 必須

人工呼吸器管理 気管切開の管理 鼻咽頭エアウェイの管理 酸素療法

吸引(口鼻腔・気管内吸引) ネブライザーの管理

経管栄養(経鼻胃管、胃ろう、経鼻腸管、経胃ろう腸ろう腸管、腸ろう、食道ろう、持続経管注入ポンプ使用)

中心静脈カテーテルの管理(中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬等)

皮下注射(インスリン、麻薬等の注射を含む、持続皮下注射ポンプの使用)

血糖管理 継続的な透析(血液透析、腹膜透析)

導尿(間欠的導尿、持続的導尿(尿道留置カテーテル、膀胱ろう、腎ろう、尿路ストーマ))

排便管理(消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸)

痙攣時の対応(座薬挿入、吸引、酸素投与、迷走神経刺激装置の作動等の処置)

問9 主な移動手段 必須

自家用車 福祉タクシー・タクシー 公共交通機関 家族等の送迎

その他( )

問10 (日常的に行っている)医療的ケアの方法 必須

- 全介助 一部介助 自立

問11 就学・就業の状況 必須

- 未就学 保育園・幼稚園・こども園 小学校 中学校 高等学校 就業

- 在宅 その他( )

(小学校、中学校、高等学校を選択した方のみ回答してください。)

- 特別支援学校 普通学校

問12 サービスの利用状況(複数選択可) 必須

- 訪問看護 療養介護 居宅介護(ホームヘルパー) 重度訪問介護

- 短期入所(ショートステイ) 生活介護 就労A型、B型、移行 施設入所支援

- 障害児入所施設 児童発達支援 放課後等デイサービス 利用なし

- その他( )

利用なしを選択した方のみ回答してください

利用しない理由を教えてください。

- 家族で介護できるため 利用できるサービスについて知らないため

- 利用方法が分からないため 利用したいサービスがないため

- 医療的ケアに対応できる事業所が少ないため 専門性や安全性に不安があるため

- 事業所が遠く、通うのが大変なため 利用料が負担できないため

- その他( )

問13 障害支援区分の認定状況(18歳以上の方のみ)

- 有 無

問14 小児慢性特定疾病医療受給者証の有無  必須

有  無

問15 特定医療費(指定難病)医療費受給者証の有無  必須

有  無

問16 医療的ケアや介護に係る困りごとの相談先(複数選択可)  必須

- 家族  医療機関  訪問看護師  ヘルパー  相談支援専門員
- 医療的ケア児者支援コーディネーター  学校、幼稚園、保育園等の先生
- 障がい福祉事業所(日中通所先)の職員  障がい者相談支援センター
- 保健所(県)の保健師等  当事者団体の相談窓口(身体障害者福祉会等)
- 友人  相談できる人がいない  その他( )

2 介助者について教えてください。

問1 主な介助者  必須

父母  配偶者  兄弟姉妹  祖父母  なし  その他( )

問2 身体の状態  必須

- 良好  不良だが通院するほどではない  不良のため通院している
- 不良のため通院したいが、介護のため通院できない
- 不良のため通院したいが、介護以外の理由により通院できない
- その他( )



問6 利用したいが不足していると感じているサービス(複数選択可)

必須

- 訪問看護 療養介護 居宅介護(ホームヘルパー) 重度訪問介護
- 短期入所(ショートステイ) 生活介護 就労A型、B型、移行 施設入所支援
- 障害児入所施設 児童発達支援 放課後等デイサービス 利用なし
- その他( )

回答した項目別に記入してください

**【訪問看護】** どのような点が不足していると感じるか教えてください。(複数選択可)

- 利用できる回数や時間が十分でない 専門性や安全性が十分でない
- 利用したい施設の定員が超過している 医療的ケアに対応できる事業所が少ない
- 医療的ケアに対応できる専門性を持った職員(看護師等)が不足している
- 事業所が遠い 送迎サービスがない 緊急時対応や夜間対応の受け入れがない
- その他( )

**【療養介護】** どのような点が不足していると感じるか教えてください。(複数選択可)

- 利用できる回数や時間が十分でない 専門性や安全性が十分でない
- 利用したい施設の定員が超過している 医療的ケアに対応できる事業所が少ない
- 医療的ケアに対応できる専門性を持った職員(看護師等)が不足している
- 事業所が遠い 送迎サービスがない 緊急時対応や夜間対応の受け入れがない
- その他( )







問7 緊急時(※)に医療的ケアが必要な方の介助が困難な場合、対応を頼める相手(複数選択可)

※主な介助者の急用、急病、入院等

- 同居家族 別居家族 友人・知人 居宅介護(ホームヘルパー) 必須
- 短期入所(ショートステイ) 訪問看護 生活介護 児童発達支援
- 放課後等デイサービス 放課後児童クラブ いない
- その他( )

問8 緊急時受け入れ対応に係る事前登録の有無 必須

※本市では、介護者が急病、入院等で不在となり、障がいのある方が一人で過ごすことが難しい状況が発生した時のために、緊急の受け入れ先やかかりつけ医、障がいの特性などを事前に登録しておく制度を導入しました。事前登録しておくことで、支援に必要な情報が事前に分かるため、緊急時に事業所が受け入れやすくなります。

- 有 無

登録を希望される場合は記載してください。

※なおこの情報は、緊急時の受入対応事前登録にのみ活用します。

氏 名

電話番号 ( ) -

3 医療的ケアが必要な方の日中の居場所について教えてください。

問1 日中の主な居場所 必須

- 自宅 幼稚園又は保育園 児童発達支援事業所 小中学校の普通学級
- 小中学校の特別支援学級 特別支援学校 療養介護先 生活介護先
- 自立訓練(生活訓練)先 就労移行支援先 就労継続支援A型(雇用型)先
- 就労継続支援B型(非雇用型)先 日中一時支援先 一般企業での就職先
- 大学・専門学校 その他( )

#### 4 災害時への対策について教えてください。

問1 災害時の避難行動要支援者名簿(※)への登録の有無 必須

※自治会が作成

有 無 不明

問2 個別避難計画(※)の作成の有無 必須

※医療的ケアを受けている方の避難支援方法を記したもの(自治会等が作成)

有 無 不明

問3 災害時に備えていること(複数選択可) 必須

- 自宅地域のハザードマップの確認 避難場所・避難ルート・避難方法の確認
- 家庭内での避難方法の共有 医療用具・衛生材料の備蓄 食料品・飲料水の備蓄
- 停電時の電源確保 停電時の医療機器への対応
- 家族以外で支援を依頼できる人との情報共有 利用している各機関との情報共有
- 隣人・自治会での情報共有 なし その他( )

問4 今後備えたいこと(複数選択可) 必須

- 自宅地域のハザードマップの確認 避難場所・避難ルート・避難方法の確認
- 家庭内での避難方法の共有 医療用具・衛生材料の備蓄 食料品・飲料水の備蓄
- 停電時の電源確保 停電時の医療機器への対応
- 家族以外で支援を依頼できる人との情報共有 利用している各機関との情報共有
- 隣人・自治会での情報共有 なし その他( )

## 5 最後に

### 問1 行政に求める支援 必須

例：幼稚園や保育園、学校の受入体制の強化、障害福祉・医療サービス等の情報発信  
家族等のケア(休息等)に利用できるサービスの拡大、同じ悩みを持つ人と話せる場が欲しい 等

(自由記載)

### 問2 地域に求める支援

例：災害時の対応で相談できる人が欲しい、公会堂等の施設のバリアフリー化 等

(自由記載)

### 問3 医療機関や福祉事業所に求める支援

例：預かり時間を長くして欲しい、オンライン等で気軽に相談できる 等

(自由記載)

### 問4 今後の生活を送る上での困り事、心配事について教えてください。

例：就労したいが、働き先がない、経済的に困窮している、介護負担が重いためもっと支援を受けたい  
緊急時に預けられるところがない 等

(自由記載)

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

令和7年度  
医療的ケアを必要とする方とそご家族の暮らしに関する調査集計及び分析

調査報告書

令和8年1月

磐田市 健康福祉部 福祉相談課 障がい福祉グループ

〒438-0077 静岡県磐田市国府台 57 番地 7

TEL : (0538) 37-4919

FAX : (0538) 36-1635